

せい かちょう きょうせいしゃかい しょうがいふくし かん ちょうさ
精華町の共生社会(障害福祉)に関するアンケート調査
ほう こく しょ
報告書

I 調査の概要

1	調査目的	1
2	調査対象者、調査方法	1
3	調査の期間	1
4	回収状況	1
5	調査内容	1
6	集計・分析方法	1

II 調査結果のまとめ

1	調査結果の全体像	2
2	回答者について	3
3	社会参加について	13
4	障害者団体やボランティアについて	22
5	障害者に対する差別解消について	24
6	障害者を介助しているご家族について	29
7	障害者施策について	35

調査票

I 調査の概要

1 調査目的

- 精華町では、平成 30（2018）年度において、精華町第 2 次障害者基本計画の見直しを予定しています。
- アンケート調査によって障害者や介助者の生活実態、施策ニーズを把握し、計画の見直しに反映することを目的として調査を実施しました。

2 調査対象者、調査方法

- 精華町内の障害者手帳等所持者 1,679 件
- 郵送配布・郵送回収

3 調査の期間

- 平成 30 年 2 月 12 日～2 月 28 日

4 回収状況

- 郵送配布 1,679 票 回収 768 票 回収率 46%

5 調査内容

- 以下の調査項目について、実態や意向等を質問しました。

調査項目

- 1 回答者について
- 2 社会参加について
- 3 障害者団体やボランティアについて
- 4 障害者に対する差別解消について
- 5 障害者を介助しているご家族について
- 6 障害者施策について

6 集計・分析方法

- 集計・分析にあたっては、小数点第 2 位を四捨五入して算出しています。したがって、回答比率を合計しても 100%にならず、1%の範囲で増減することがあります。
- N：回答者件数。集計表の上段は回答者件数、下段は構成比%。
- SA：単数回答、MA：複数回答。

II 調査結果のまとめ

1 調査結果の全体像

(1) 相談機関の連携や健康づくりの取組

- 平成 23（2011）年度調査と比較すると、リハビリや健康診断の受診、かかりつけ医師等の有無などの回答は良くなっています。全体では健康づくりの取組は前進していると思われていますが、障害種別で状況をみていく必要があります。
- 病院が相談先として突出しており、役場、事業所、障害者相談支援センターが続いています。「どこに相談に行けばよいか分からない」といった問題点が指摘されており、相談機関の周知や連携が求められています。

(2) 社会参加の促進

- 回答者全体の 67.6%が一日おき程度の外出機会があり、57.9%が仲間や隣近所との交流があるなど、人とのつながりをもっています。精華町行事への参加度が上がる一方で、障害者団体やボランティアの認知度が下がる傾向にあります。
- 回答者全体の 25.8%が福祉施設を含めた就労の場で働いています。精神障害者保健福祉手帳所持者は常勤やパート・臨時雇用で、療育手帳所持者は福祉施設で働いているなど、障害種別で就労形態が異なっていることから、就労実態やニーズの違いへの対応が求められます。

(3) 地域ぐるみの人のつながりづくり

- 介助者では「近所付き合いがないため期待できない（11.8%）」「障害者がいることを知られたくない（3.8%）」といった回答があり、地域とのつながりに消極的な面があります。
- 療育手帳や精神障害者保健福祉手帳所持者について、地域とのつながりに消極的な回答があることから、地域ぐるみの介助者支援の対応が求められています。

(4) 差別解消の取組

- 障害者権利条約や合理的配慮等について、回答者全体の約 3 割が「知っている」と答えています。
- 15.1%に差別された経験があり、若い世代、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳所持者に差別経験者の比率が高くなっています。就労の現場において、福祉施設で働いている、パート・臨時雇用の回答者について差別経験者の比率が高くなっています。
- 差別事例の回答は職場が最も多く、その他に、学校等の教育現場、建物や交通機関、情報コミュニケーション、医療、買い物や食事、地域や家庭について、具体的な事例が上げられています。

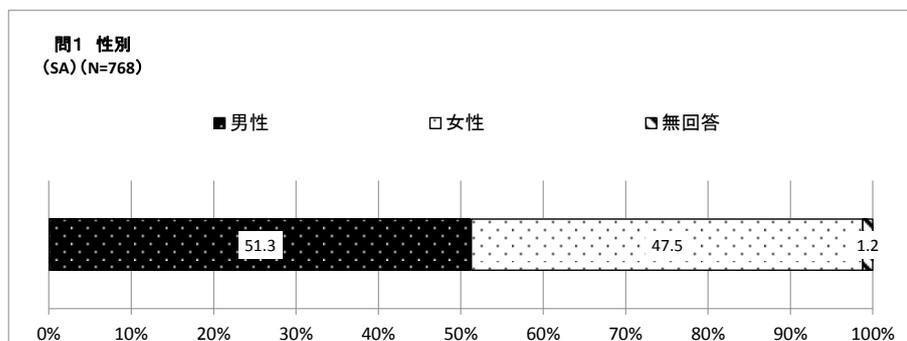
(5) 介助者を含めた精神障害者の支援

- 精神障害者手帳保持者は「友人や相談相手はいない（26.3%）」「家族や親族以外の交流はない（43.8%）」といった回答があり、介助者についても「障害者がいることを知られたくない（12.5%）」など、人とのつながりが弱い状況がうかがえます。
- 福祉サービスによる支援とともに、地域における孤立を防ぐ取組が求められています。

2 回答者（障害者本人と世帯）について

問1 あなたの性別について、お答えください。【○はひとつ】

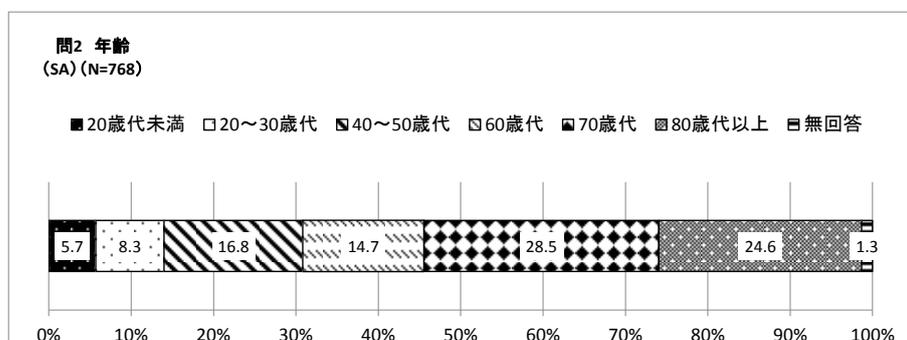
○回答者の性別は、「男性（51.3%）」「女性（47.5%）」であり、ほぼ5：5の男女比となっています。



問2 あなたの年齢について、お答えください。【○はひとつ】

○回答者の年齢は、「20歳代未満（5.7%）」「20～30歳代（8.3%）」となっており、30歳代以下が14%、「40～50歳代」が16.8%となっています。

○60歳代以上についてみると、「60歳代（14.7%）」「70歳代（28.5%）」「80歳代以上（24.6%）」となっており、60歳以上の回答者が67.8%を占めています。



問3 あなたのお住まいの地区について、お答えください。【○はひとつ】

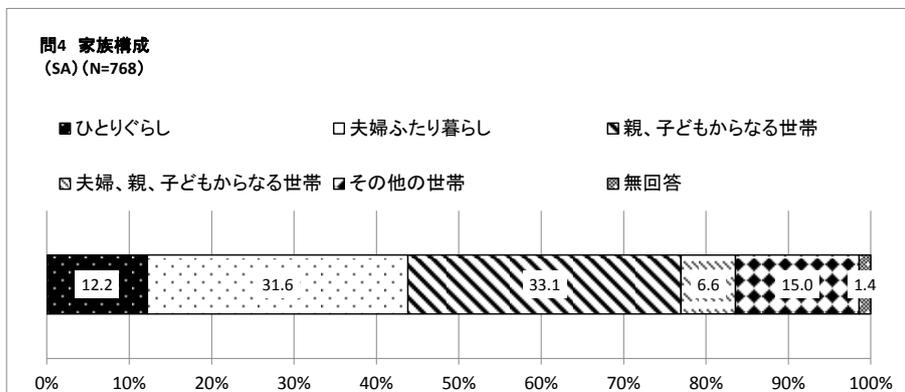
○回答者の居住地は以下のとおりです。

調査数	菱田	滝ノ鼻	舟	里	僧坊	谷	旭	北稲八間	南稲八妻	植田	菅井	北ノ堂	馬淵	南
768 100.0	47 6.1	23 3.0	20 2.6	8 1.0	40 5.2	9 1.2	2 0.3	31 4.0	26 3.4	22 2.9	10 1.3	30 3.9	10 1.3	42 5.5
中	東	西北	山田	乾谷	柘榴	東畑	中久保田	桜が丘	光台	祝園西	精華台	その他	いわからな	無回答
22 2.9	14 1.8	9 1.2	25 3.3	9 1.2	16 2.1	19 2.5	6 0.8	86 11.2	114 14.8	29 3.8	70 9.1	14 1.8	1 0.1	14 1.8

問4 あなたの家族構成について、お答えください。【○はひとつ】

○回答者の家族構成は「親、子どもからなる世帯（33.1%）」が最も多く、「夫婦ふたり暮らし（31.6%）」が続いています。

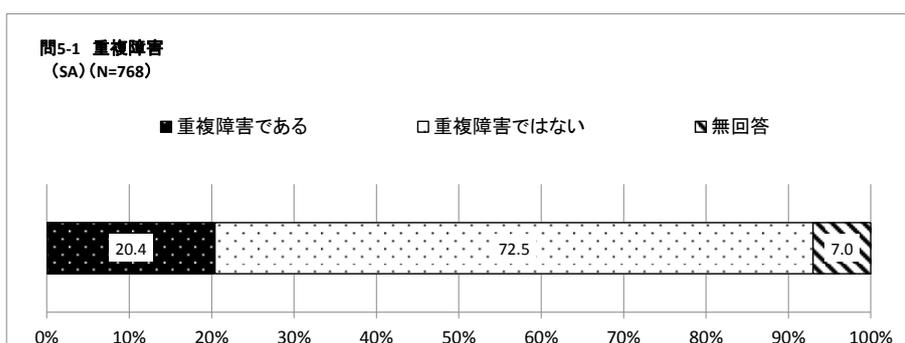
○家庭内で介助を受けることが難しい「ひとり暮らし」が12.2%を占めています。



問5 あなたの障害について、お答えください。

問5-1 いくつかの障害（重複障害）がありますか。【○はひとつ】

○回答者の20.4%が「重複障害である」と答えています。



問 5-2 あなたの障害について、お答えください。【該当するものすべてに○】

○回答者の主な障害種別は、「身体障害（78.1%）」が最も多く、「知的障害（15.2%）」「精神障害（11.2%）」となっています。

○身体障害では「肢体不自由（32.6%）」が最も多く、「内部障害（18.8%）」「体幹機能障害（9.5%）」が続いています。

調査数 (複数回答)	身体障害						知的障害	精神障害	その他	無回答
	肢体不自由	視覚障害	音声・言語障害 はそしやく機能障害	聴覚・平衡機能障害	体幹機能障害	内部障害				
768	250	39	34	59	73	144	117	86	71	86
100.0	32.6	5.1	4.4	7.7	9.5	18.8	15.2	11.2	9.2	11.2

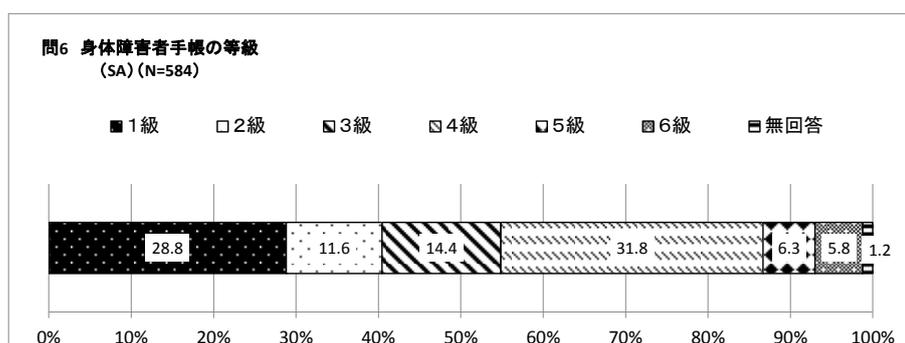
問 6 あなたの持っている手帳の種類と程度についてお答えください。手帳を2つ以上持っておられる方は、該当する番号に○をつけ、それぞれ障害の程度を選んでください。

○障害者手帳についてみると、「身体障害者手帳（76.0%）」が最も多く、「療育手帳（15.5%）」「精神障害者保健福祉手帳（10.4%）」となっています。

調査数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	無回答
768	584	119	80	16
100.0	76.0	15.5	10.4	2.1

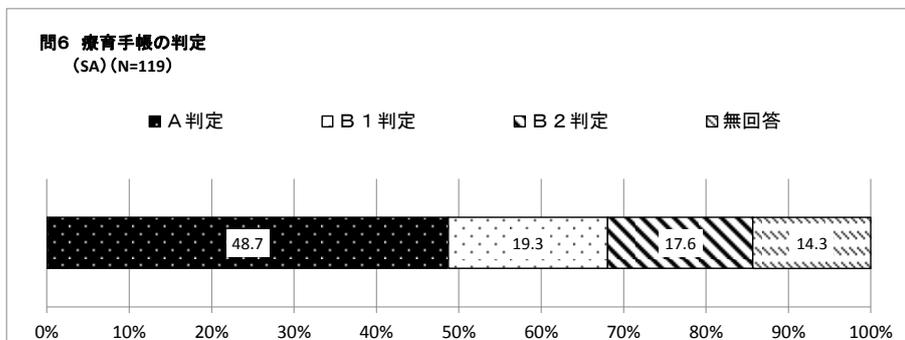
○身体障害者手帳の所持者では、「4級（31.8%）」が最も多くなっています。介助を必要とする重度者である1～3級が54.8%を占めています。

調査数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
584	168	68	84	186	37	34	7
100.0	28.8	11.6	14.4	31.8	6.3	5.8	1.2



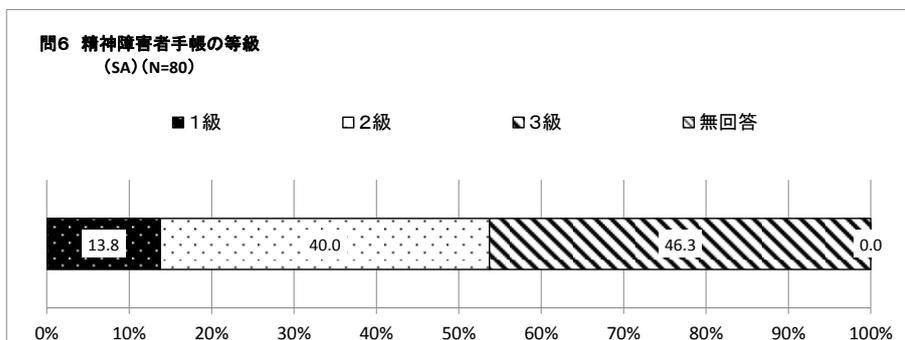
○療育手帳の所持者では、介助を必要とする重度者であるA判定が48.7%を占めています。

調査数	A判定	B1判定	B2判定	無回答
119	58	23	21	17
100.0	48.7	19.3	17.6	14.3



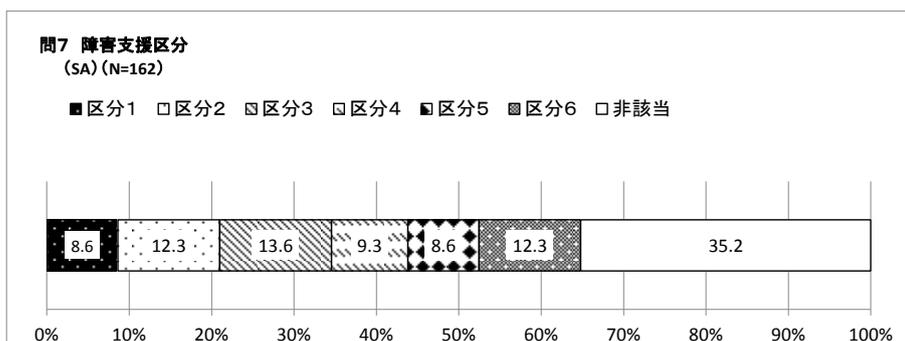
○精神障害者保健福祉手帳の所持者では、介助を必要とする重度者である1級が13.8%を占めています。

調査数	1級	2級	3級	無回答
80	11	32	37	-
100.0	13.8	40.0	46.3	-



問7 あなたの障害支援区分についてお答えください。【○はひとつ】

○回答者の障害支援区分では「区分5 (8.6%)」「区分6 (12.3%)」となっており、介助を必要とする重度者が20.9%を占めています。



問8 あなたは現在、リハビリテーションや生活訓練を受けていますか。【○はひとつ】

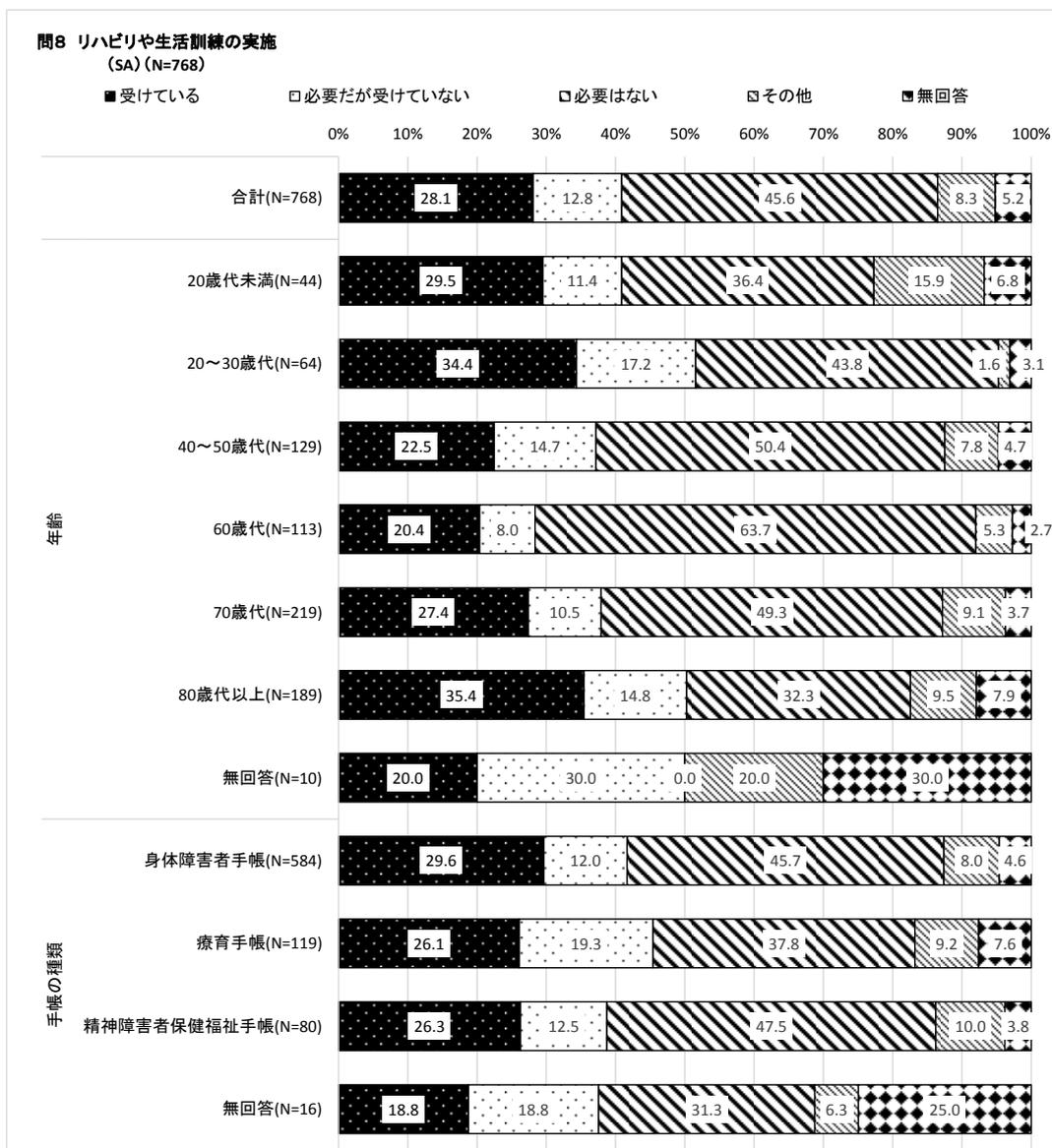
○リハビリや生活訓練について、回答者の28.1%が「受けている」と答えています。一方で、「必要だが受けていない」といった回答が12.8%となっています。

○平成23年度調査との比較では、「必要だが受けていない」の回答は若干減っています。

○「必要だが受けていない」といった回答に着目すると、全体（合計）との比較では、20～30歳代、80歳代が若干多くなっています。療育手帳所持者について「必要だが受けていない」回答者の比率が若干高くなっています。

表 リハビリや生活訓練の受療

	全体	受けている	必要だが受けていない	必要はない	その他	不明
H29 調査	100.0	28.1	12.8	45.6	8.3	5.2
H23 調査	100.0	28.3	14.2	43.1	5.9	8.5
H13 調査	100.0	20.5	19.4	39.4	10.3	10.4

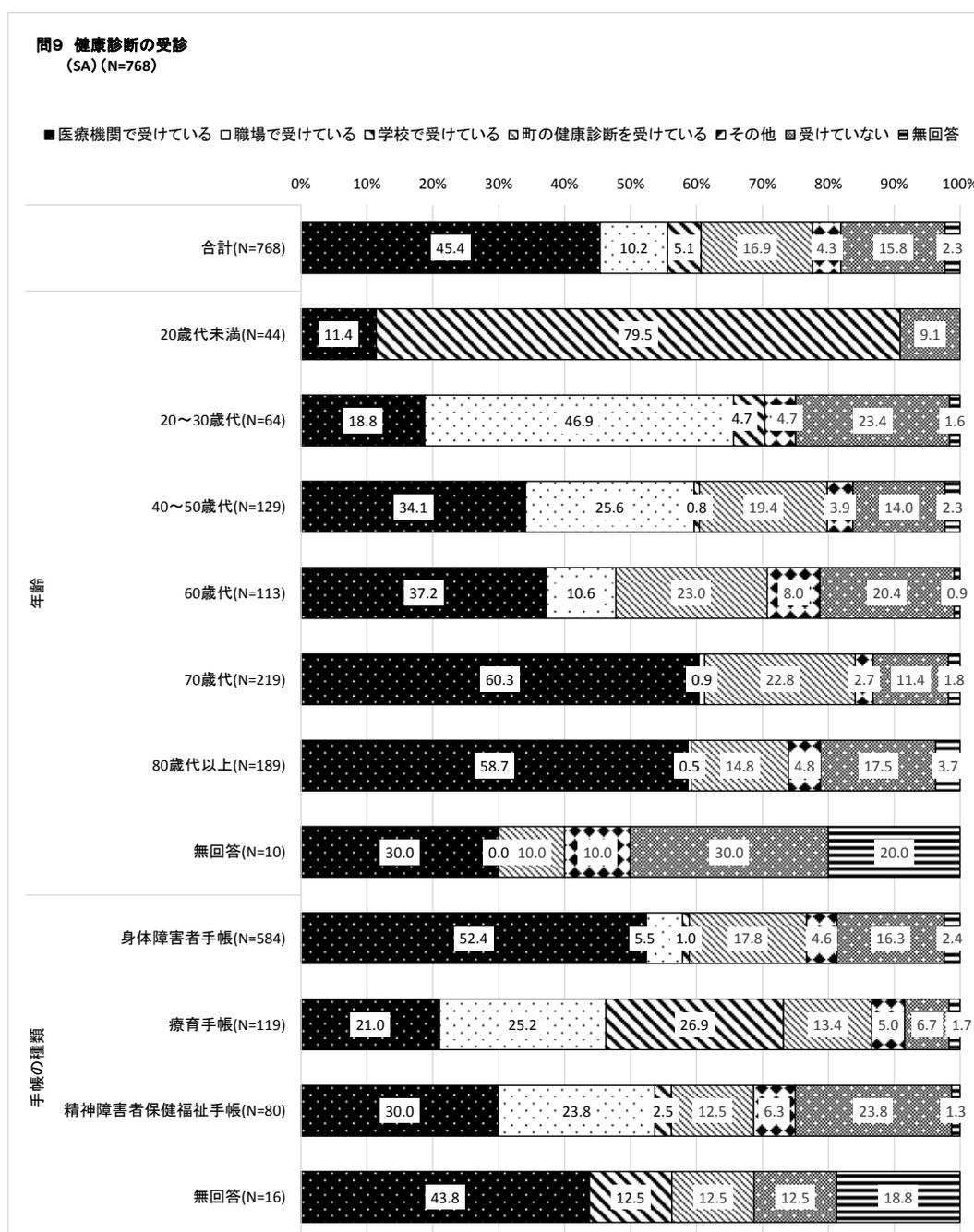


問9 あなたは健康診断を受けていますか。【〇はひとつ】

○健康診断について、医療機関、職場、学校、町の健康診断をあわせると、回答者の81.9%が「受けている」と答えています。一方で、「受けていない」といった回答が15.8%となっています。平成23年度調査との比較では、「受けている」回答者の比率は79.5%から81.9%へと若干上がっています。

表 健康診断の受診

	全体	医療機関で受けている	職場で受けている	学校で受けている	町の健康診断を受けている	その他	受けていない	不明
H29 調査	100.0	45.4	10.2	5.1	16.9	4.3	15.8	2.3
H23 調査	100.0	51.3	10.9	3.5	10.2	3.6	15.9	4.6
H13 調査	100.0	53.2	9.6	3.9	9.0	3.9	13.1	7.3



- 受診場所について年齢別にみると、高齢者ほど「医療機関」の比率が高くなっています。20～50 歳代では「職場」「医療機関」が、40 歳以上では「町の健康診断」が高くなっています。
- 「受けていない」といった回答に着目すると、全体（合計）との比較では、60 歳代、80 歳代以上が若干高くなっています。精神障害者保健福祉手帳所持者について「受けていない」回答者の比率が高くなっています。

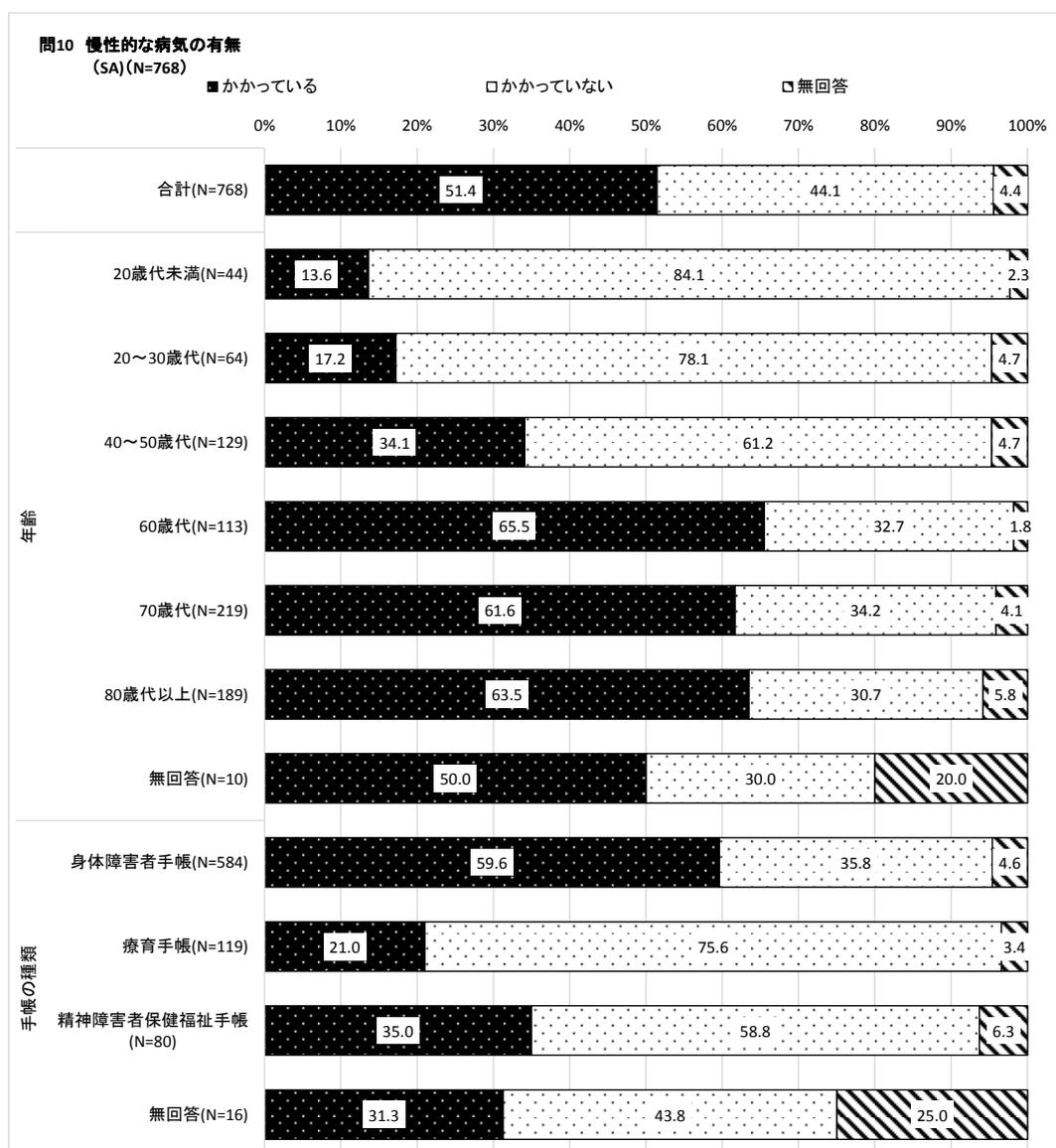
問10 あなたは現在、慢性的な病気（高血圧症、リュウマチ、糖尿病など）にかかっていますか。【○はひとつ】

○慢性的な病気について、回答者の51.4%が「かかっている」と答えています。平成23年度調査との比較では、「かかっている」回答の比率が若干高くなっています。

○「かかっている」といった回答に着目すると、全体（合計）との比較では、60歳代以上や身体障害者手帳所持者について若干高くなっています。

表 慢性的な病気

	全体	かかっている	かかっていない	不明
H29 調査	100.0	51.4	44.1	4.4
H23 調査	100.0	49.1	45.9	5.0
H13 調査	100.0	41.6	51.6	6.8



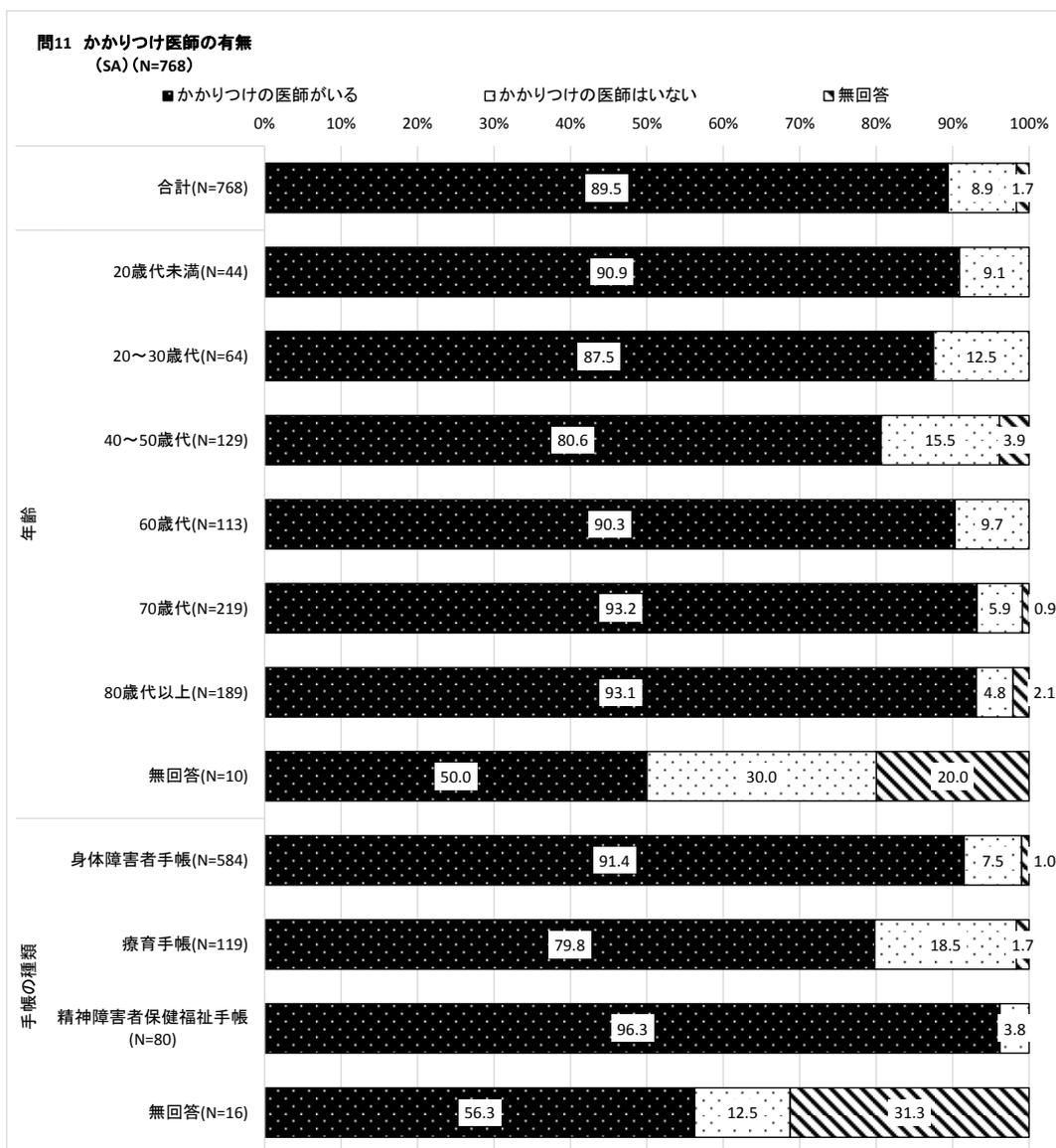
問11 あなたは、あなたの障害について相談できる医師がいますか。【○はひとつ】

○障害について相談できる医師について、回答者の89.5%が「かかりつけの医師がいる」と答えています。平成23年度調査との比較では、「かかりつけの医師がいる」回答者の比率は若干高くなっています。

○全体（合計）との比較では、40～50歳代や、療育手帳所持者では「かかりつけの医師がいる」回答者の比率が若干低くなっています。

表 かかりつけ医師の有無

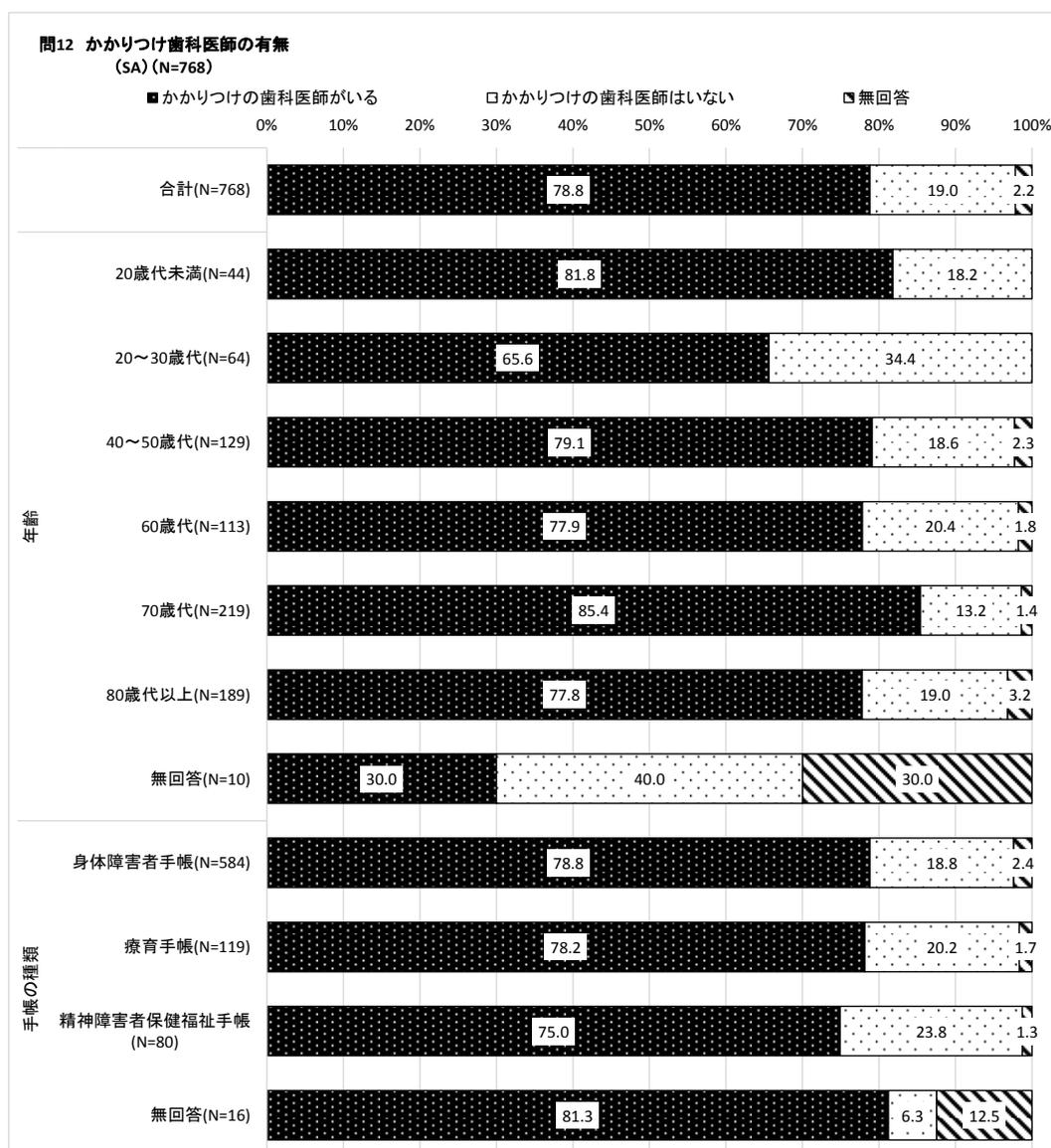
	全体	かかりつけの医師がいる	かかりつけの医師はいない	不明
H29 調査	100.0	89.5	8.9	1.7
H23 調査	100.0	86.8	11.4	1.8
H13 調査	100.0	74.8	20.5	4.7



問12 あなたは歯の治療を受けられる歯科医師がいますか。【〇はひとつ】

○かかりつけの歯科医師について、回答者の78.8%が「かかりつけの歯科医師がいる」と答えています。

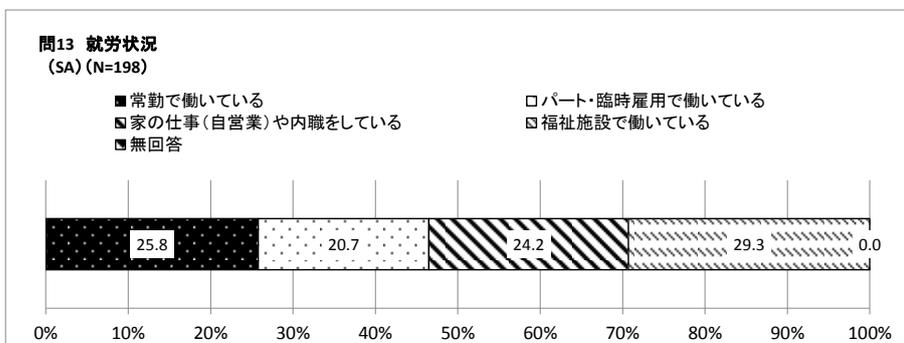
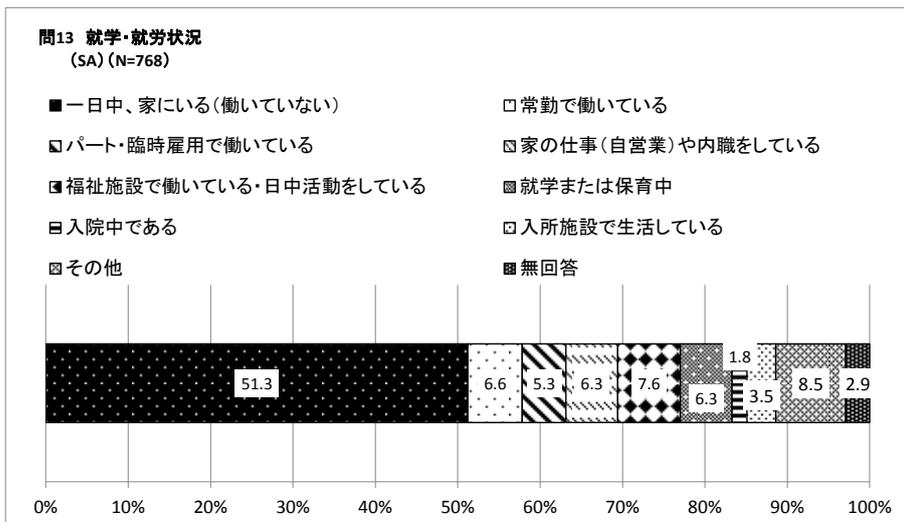
○全体（合計）との比較では、20～30歳代や、精神障害者保健福祉手帳所持者では「かかりつけの歯科医師がいる」回答者の比率が若干低くなっています。



3 社会参加について

問13 あなた（障害者ご本人）の就学・就労状況についてお答えください。【〇はひとつ】

- 就学・就労状況について、「常勤で働いている（6.6%）」「パート・臨時雇用で働いている（5.3%）」「家の仕事や内職をしている（6.3%）」「福祉施設で働いている（7.6%）」をあわせると25.8%が何らかの仕事に就いています。
- 働いている人に着目すると、「常勤（25.8%）」「パート・臨時雇用（20.7%）」の他に「家の仕事や内職（24.2%）」「福祉施設（29.3%）」と答えており、多様な就労の状況となっています。



○就学・就労している障害者を年齢別にみると、全体（合計）との比較では、常勤やパート・臨時雇用では40～50歳代が、家の仕事や内職では60歳代や70歳代が、福祉施設では20～50歳代の回答者の比率が高くなっています。

○就学・就労している障害者を障害手帳別にみると、全体（合計）との比較では、常勤やパート・臨時雇用、家の仕事や内職では精神障害者保健福祉手帳所持者が、福祉施設では療育手帳所持者の比率が高くなっています。

	調査数	20歳代未満	20～30歳代	40～50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	無回答
合計	768 100.0	44 5.7	64 8.3	129 16.8	113 14.7	219 28.5	189 24.6	10 1.3
常勤で働いている	51 100.0	- -	9 17.6	25 49.0	13 25.5	3 5.9	1 2.0	- -
パート・臨時雇用で働いている	41 100.0	- -	7 17.1	15 36.6	8 19.5	9 22.0	2 4.9	- -
家の仕事(自営業)や内職をしている	48 100.0	- -	3 6.3	5 10.4	12 25.0	20 41.7	8 16.7	- -
福祉施設で働いている	58 100.0	1 1.7	28 48.3	23 39.7	3 5.2	2 3.4	1 1.7	- -
無回答	570 100.0	43 7.5	17 3.0	61 10.7	77 13.5	185 32.5	177 31.1	10 1.8

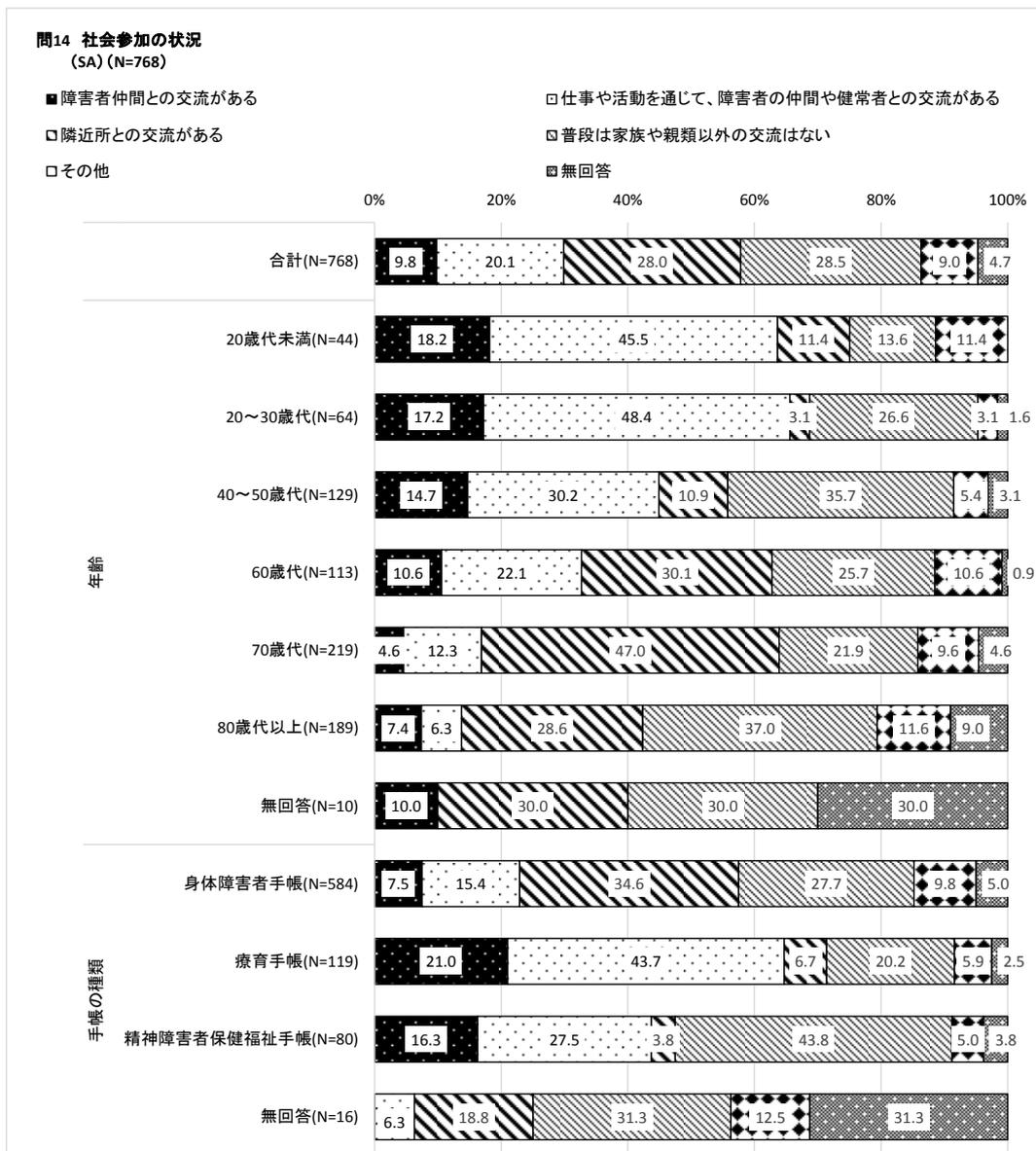
	調査数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	無回答
合計	768 100.0	584 76.0	119 15.5	80 10.4	16 2.1
常勤で働いている	51 100.0	33 64.7	7 13.7	11 21.6	- -
パート・臨時雇用で働いている	41 100.0	27 65.9	5 12.2	9 22.0	- -
家の仕事(自営業)や内職をしている	48 100.0	46 95.8	1 2.1	3 6.3	- -
福祉施設で働いている	58 100.0	13 22.4	46 79.3	9 15.5	- -
無回答	570 100.0	465 81.6	60 10.5	48 8.4	16 2.8

問14 あなた（障害者ご本人）の社会参加の状況についてお答えください。【○はひとつ】

○社会参加について、「障害者仲間との交流がある（9.8%）」「仲間や健常者との交流がある（20.1%）」「隣近所との交流がある（28.0%）」となっており、57.9%の回答者がなんらかの人のつながりを保っています。

○一方で、28.5%は「家族や親類以外の交流はない」としており、社会参加の弱さがうかがわれます。

○「家族や親類以外の交流はない」に着目すると、全体（合計）との比較では、40～50歳代や80歳代以上、精神障害者保健福祉手帳所持者の比率が高くなっています。



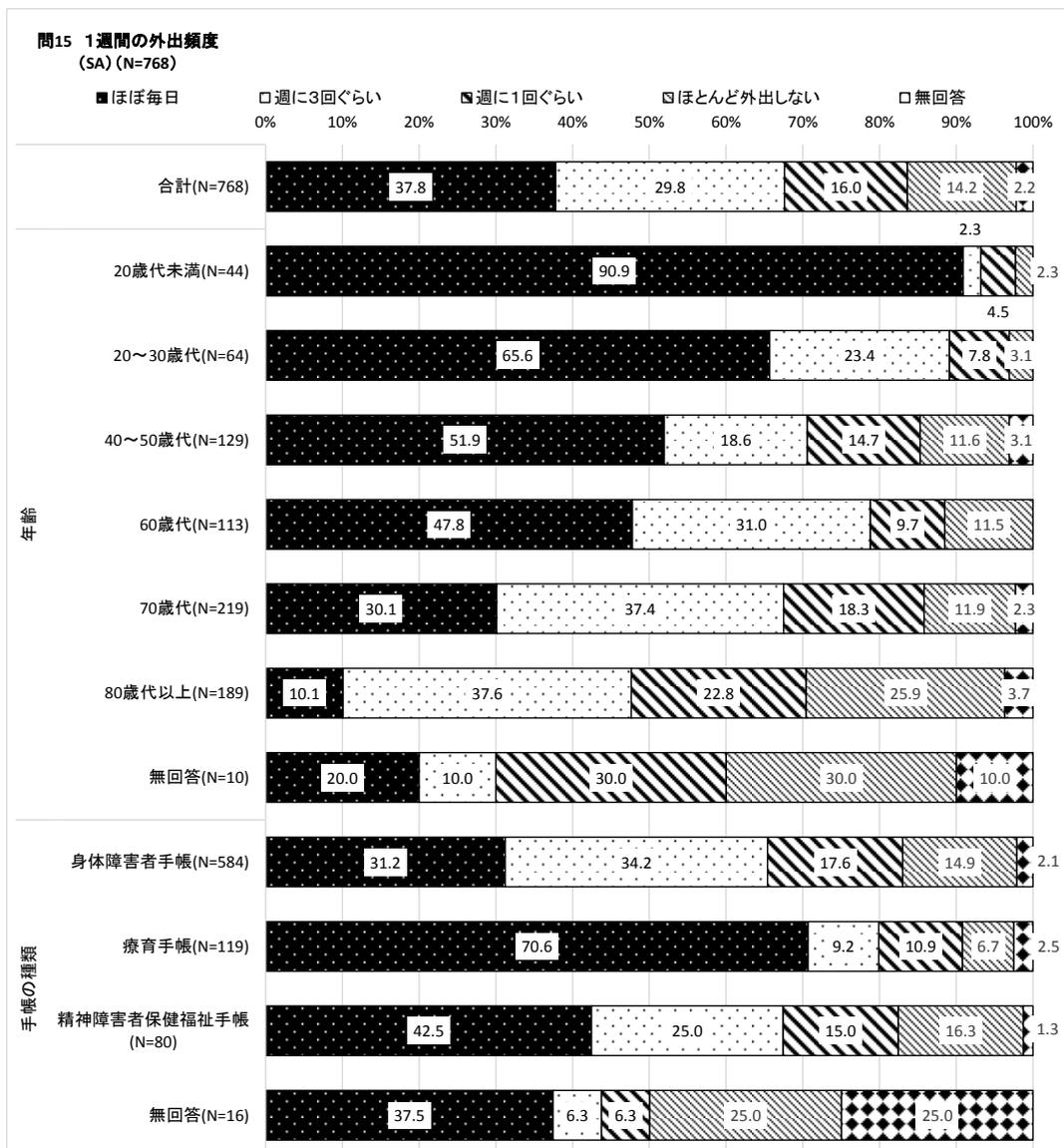
問 15 普段について、1週間のうちの外出の割合についてお答えください。【○はひとつ】

○社会参加の状況を外出頻度でみると、「ほぼ毎日（37.8%）」「週に3回ぐらい（29.8%）」を合わせると、回答者の67.6%が一日おき程度の外出機会があります。平成23年度調査との比較では、外出頻度が高くなっています。

○全体（合計）との比較では、若い世代や療育手帳所持者について、外出頻度が高くなっています。

表 外出頻度

	全体	ほぼ毎日	週に3回ぐらい	週に1回ぐらい	ほとんど外出しない	不明
H29 調査	100.0	37.8	29.8	16.0	14.2	2.2
H23 調査	100.0	33.3	25.7	18.4	16.3	6.3
H13 調査	100.0	27.3	20.8	17.5	16.9	17.5



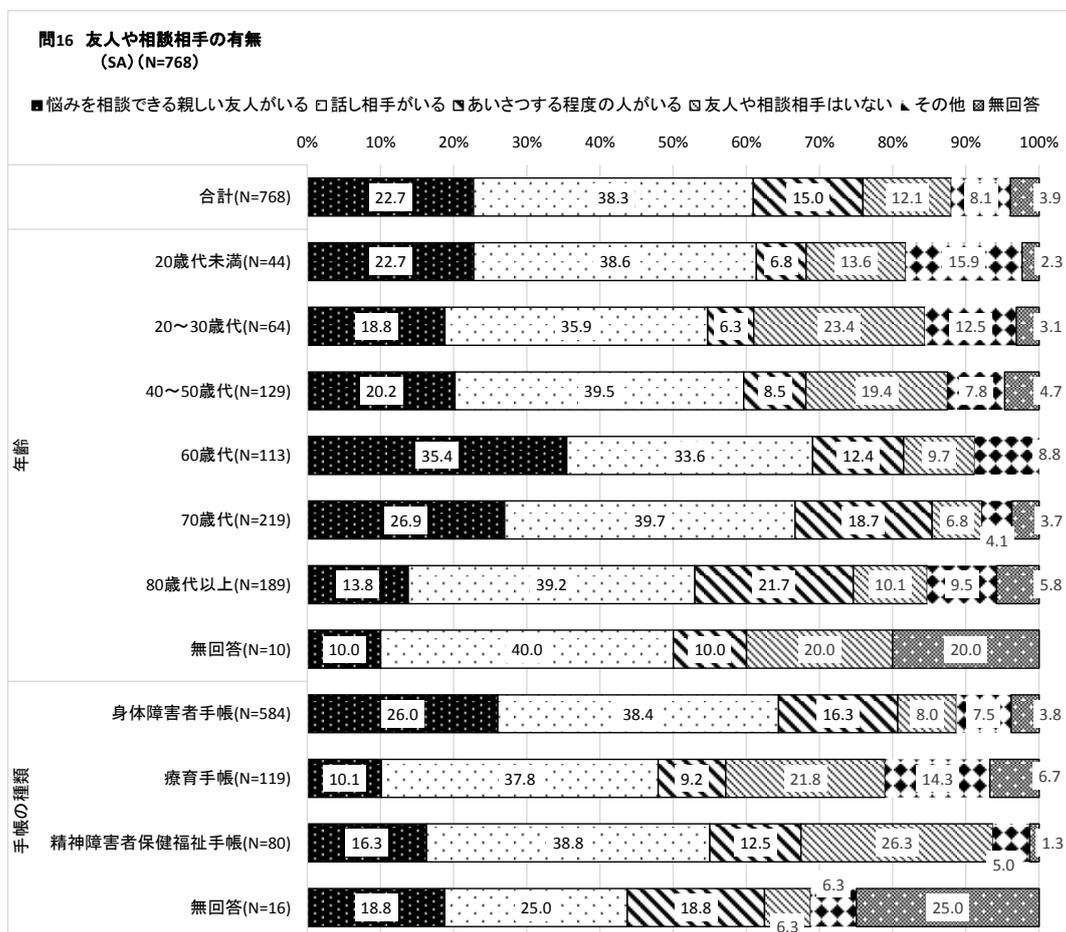
問 16 あなた（障害者ご本人）の友人や相談相手についてお答えください。【○はひとつ】

○相談相手の有無では、「相談できる親しい友人がいる（22.7%）」「話し相手がいる（38.3%）」を合わせると、61.0%が相談相手をもっています。

○「友人や相談相手はいない」に着目すると、平成 23 年度調査との比較では、若干比率が高くなっています。全体（合計）との比較では、20～50 歳代や、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者について高くなっています。

表 相談相手の有無

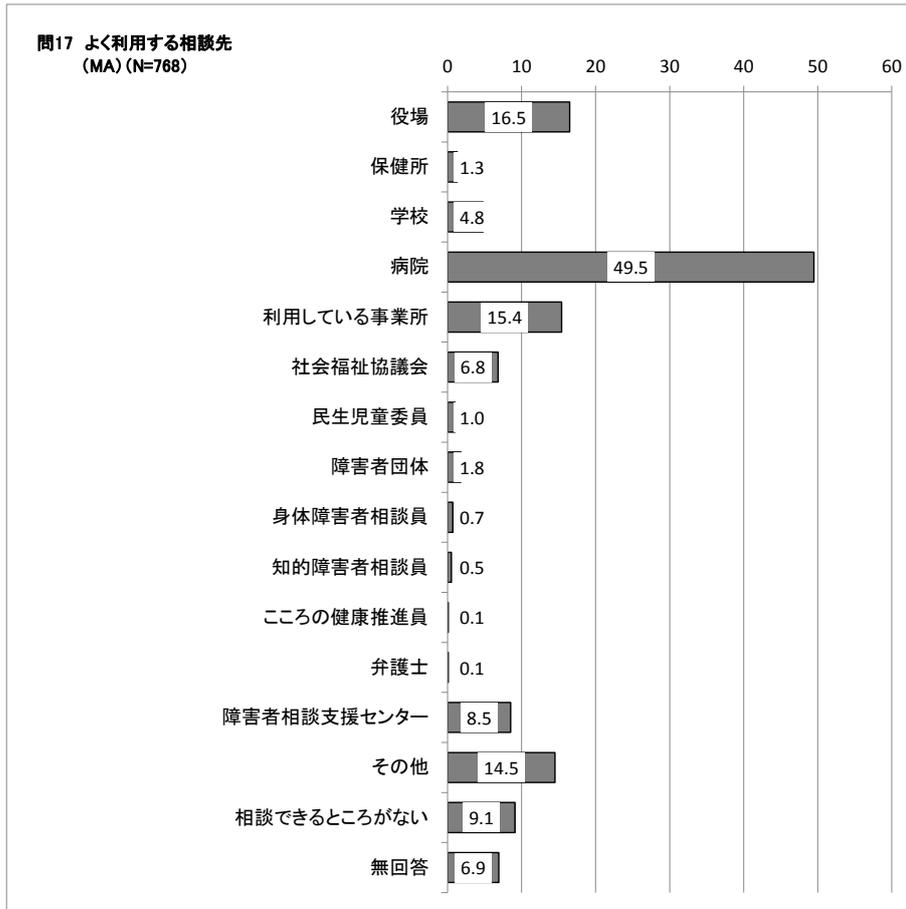
	全体	相談できる親しい友人がいる	話し相手がいる	あいさつする程度の人がいる	友人や相談相手はいない	その他	不明
H29 調査	100.0	22.7	38.3	15.0	12.1	8.1	3.9
H23 調査	100.0	21.1	38.6	14.2	10.5	9.1	6.6
H13 調査	100.0	20.2	38.0	14.8	5.0	5.2	16.7



問17 あなたがよく利用する相談先についてお答えください。【〇はいくつでも】

○よく利用する相談先は、「病院（49.5%）」が突出しており、「役場（16.5%）」「利用している事業所（15.4%）」が続いています。一方で、「相談できるところがない（9.1%）」といった回答があります。

○手帳の種類別では、身体障害者手帳所持者は全体（合計）と同様の傾向です。療育手帳所持者では「利用している事業所」や「障害者相談支援センター」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「病院」や「障害者相談支援センター」が相談先となっています。

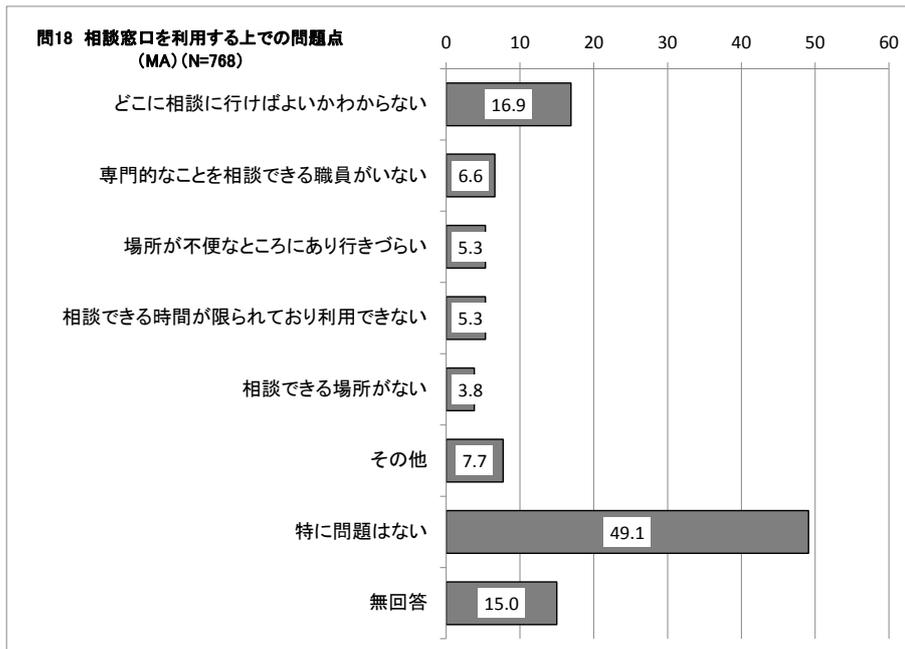


		調査数	病院	役場	利用している事業所	障害者相談支援センター	社会福祉協議会	学校	障害者団体
合計		768 100.0	380 ①49.5	127 ②16.5	118 ③15.4	65 8.5	52 6.8	37 4.8	14 1.8
手帳の種類	身体障害者手帳	584 100.0	321 ①55.0	93 ②15.9	59 ③10.1	24 4.1	46 7.9	7 1.2	10 1.7
	療育手帳	119 100.0	26 ③21.8	22 18.5	57 ①47.9	30 ②25.2	2 1.7	31 26.1	3 2.5
	精神障害者保健福祉手帳	80 100.0	41 ①51.3	17 ③21.3	13 16.3	18 ②22.5	5 6.3	1 1.3	1 1.3
	無回答	16 100.0	3 18.8	1 6.3	1 6.3	2 12.5	2 12.5	2 12.5	- -

問18 相談窓口について、利用する上での問題点をお答えください。【〇はいくつでも】

○相談窓口の問題点では、49.1%は「特に問題はない」と回答しています。一方で、「どこに相談に行けばよいかわからない（16.9%）」「専門相談ができる職員がいない（6.6%）」といった問題点が上げられています。

○手帳の種類別では、全体（合計）と比較すると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「どこに相談に行けばよいかわからない」「専門相談ができる職員がいない」の比率が高くなっています。

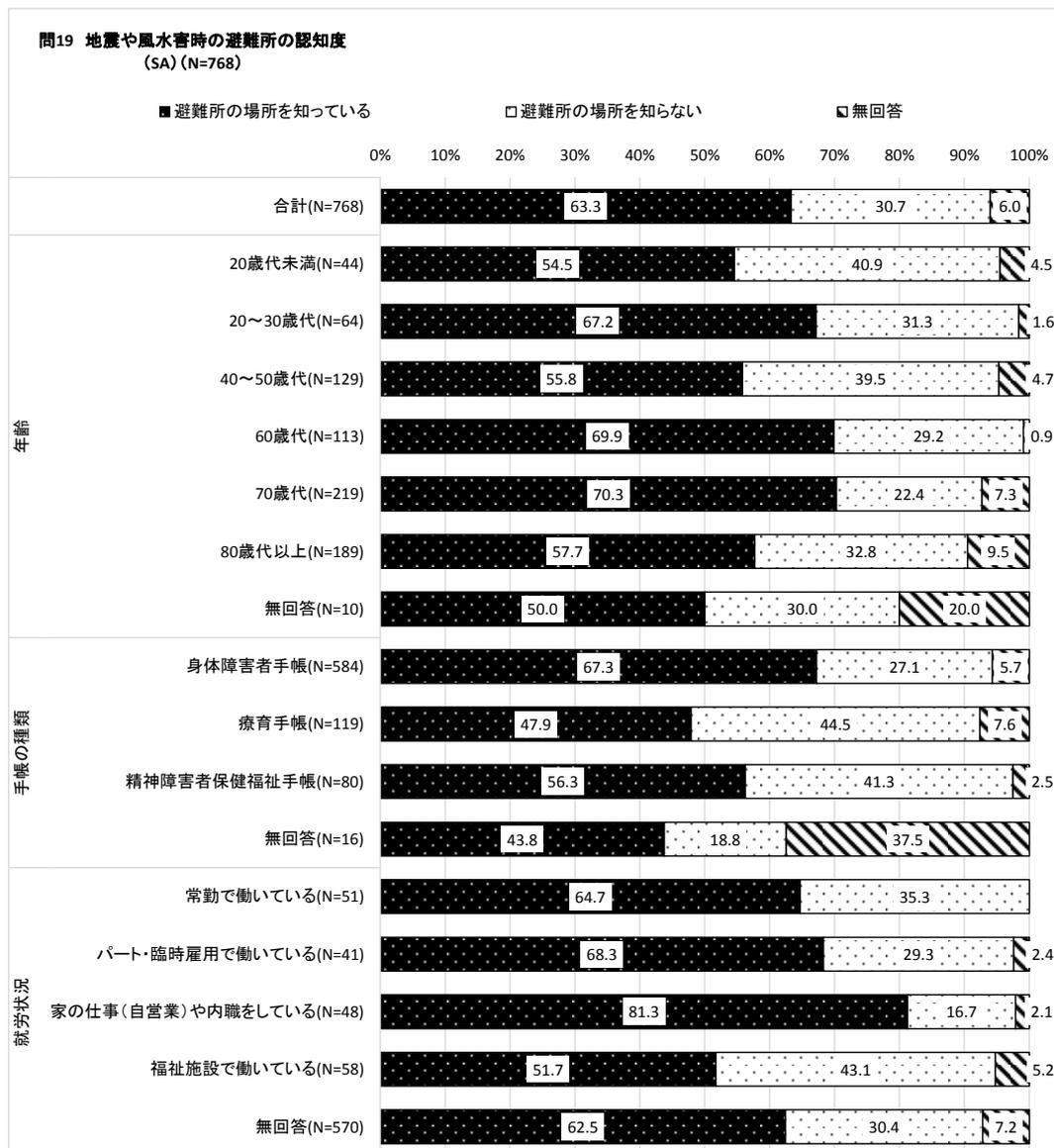


		調査数	どこに相談に行けばよいかわからない	専門的なことを相談できる職員がいない	場所が不便なところに行きづらい	相談できる時間が限られており利用できない	相談できる場所がない
合計		768	130	51	41	41	29
		100.0	16.9	6.6	5.3	5.3	3.8
手帳の種類	身体障害者手帳	584	85	26	30	18	20
		100.0	14.6	4.5	5.1	3.1	3.4
	療育手帳	119	26	13	2	13	4
		100.0	21.8	10.9	1.7	10.9	3.4
	精神障害者保健福祉手帳	80	25	12	8	10	7
		100.0	31.3	15.0	10.0	12.5	8.8
	無回答	16	3	3	1	1	1
		100.0	18.8	18.8	6.3	6.3	6.3

問19 あなたは地震や風水害のときに自分が避難する、避難所をご存じですか。
【○はひとつ】

○地震や風水害時の避難所の認知度では、63.3%が「避難所の場所を知っている」と答えています。

○全体（合計）との比較では、20歳代未満や40～50歳代、療育手帳所持者、福祉施設で働いている回答者について、認知度が低くなっています。



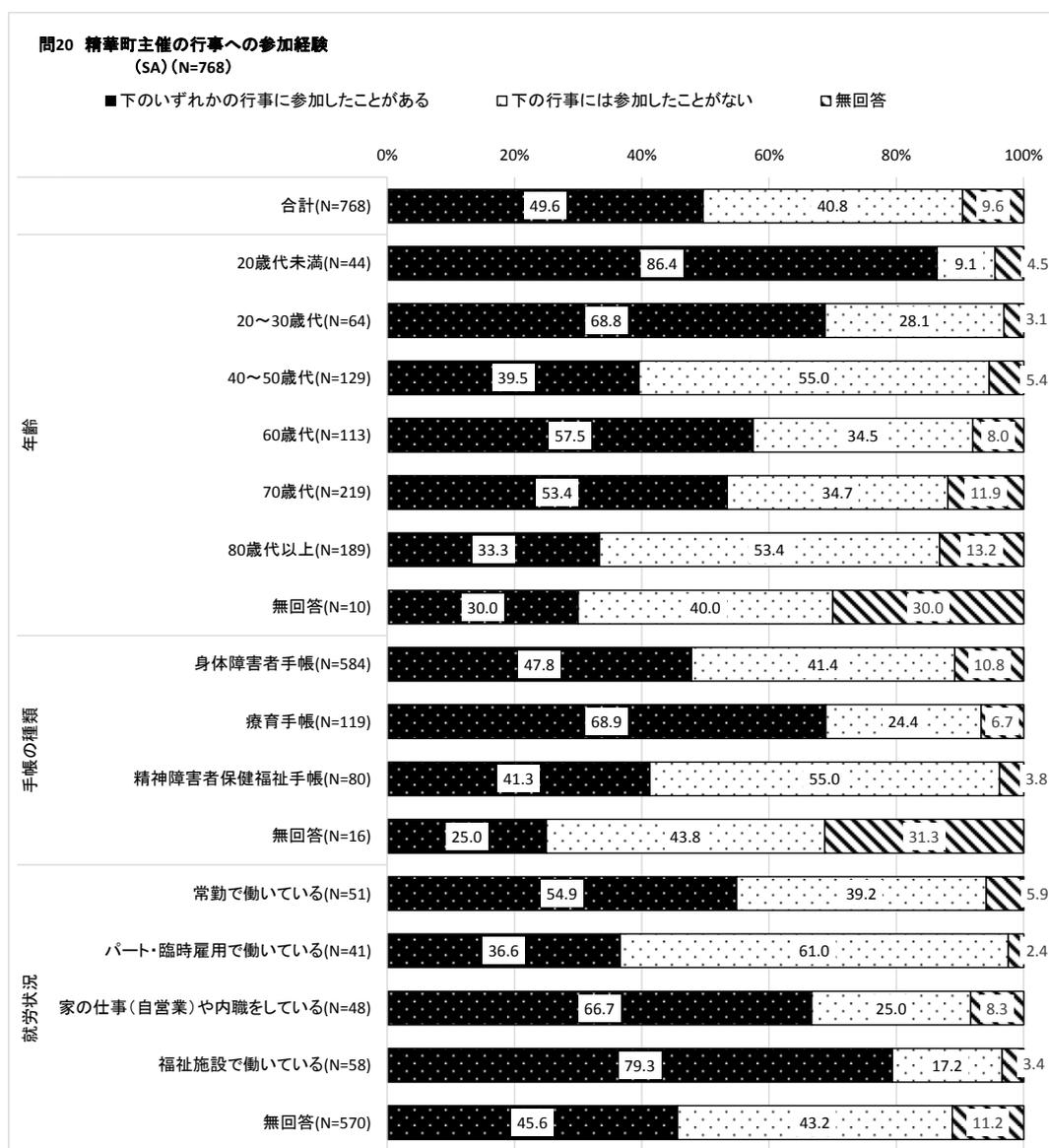
問 20 精華町等主催の行事に参加されたことがありますか。【〇はひとつ】

○精華町主催の行事参加では、49.6%が「行事に参加したことがある」と答えています。平成23年度調査との比較では、行事への参加状況がよくなっています。

○全体（合計）との比較では、20歳代未満や20～30歳代、療育手帳所持者、家の仕事や内職をしている、福祉施設で働いている回答者の参加がよくなっています。

表 精華町等主催の行事への参加

	全体	行事に参加したことがある	行事には参加したことがない	不明
H29 調査	100.0	49.6	40.8	9.6
H23 調査	100.0	40.4	41.8	17.7
H13 調査	100.0	57.7	32.3	9.9



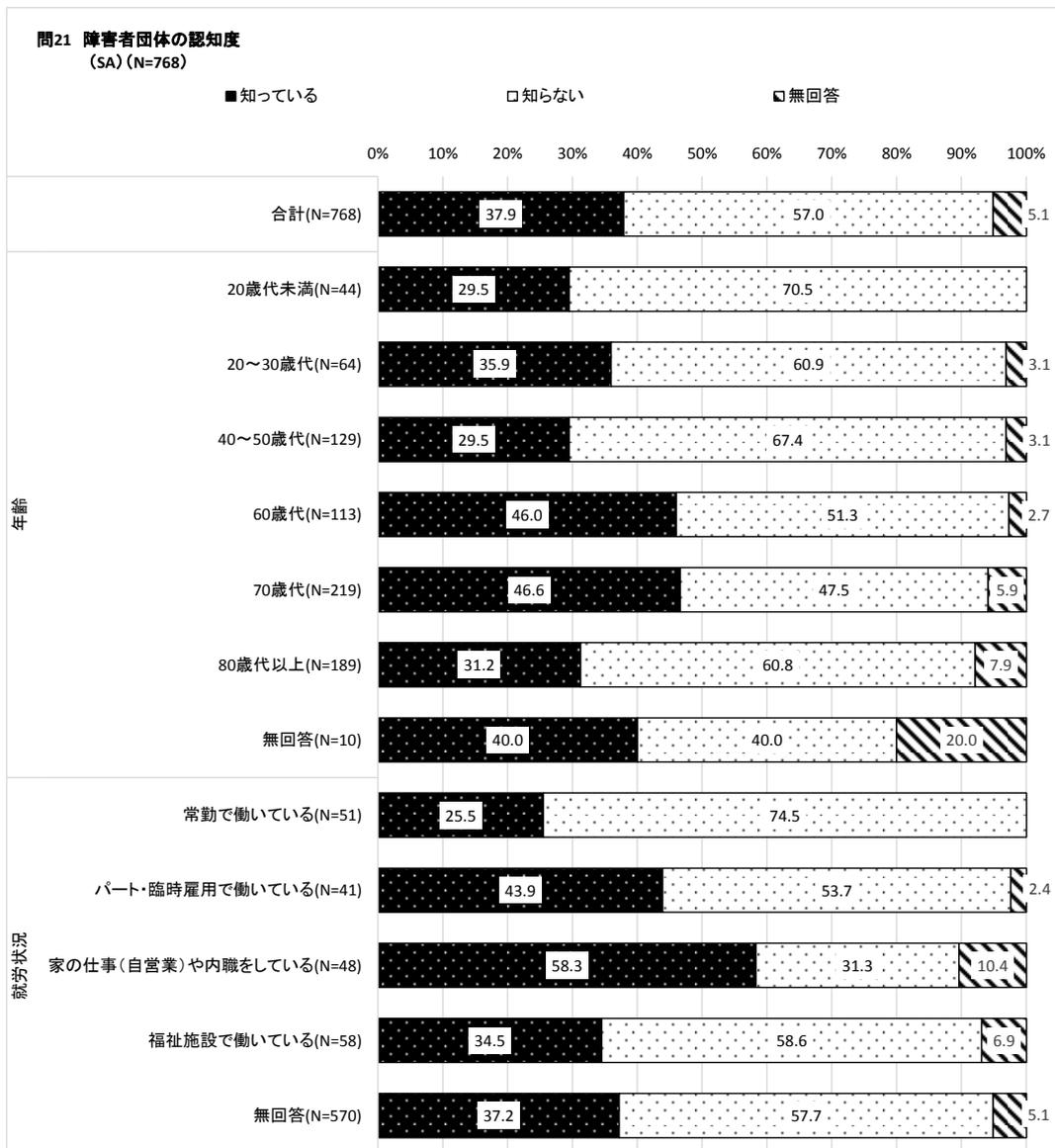
4 障害者団体やボランティアについて

問21 障害者の社会参加を進めるために障害者団体が活動していますが、ご存じですか。
【〇はひとつ】

- 社会参加のきっかけとなる障害者団体の認知度では、37.9%が「障害者団体を知っている」と答えています。平成23年度調査と比較すると、認知度が若干下がっています。
- 全体（合計）との比較では、若い世代や常勤で働いている回答者の認知度が低くなっています。

表 障害者団体の認知度

	全体	知っている	知らない	不明
H29 調査	100.0	37.9	57.0	5.1
H23 調査	100.0	46.4	47.0	6.6
H13 調査	100.0	55.4	33.4	11.2

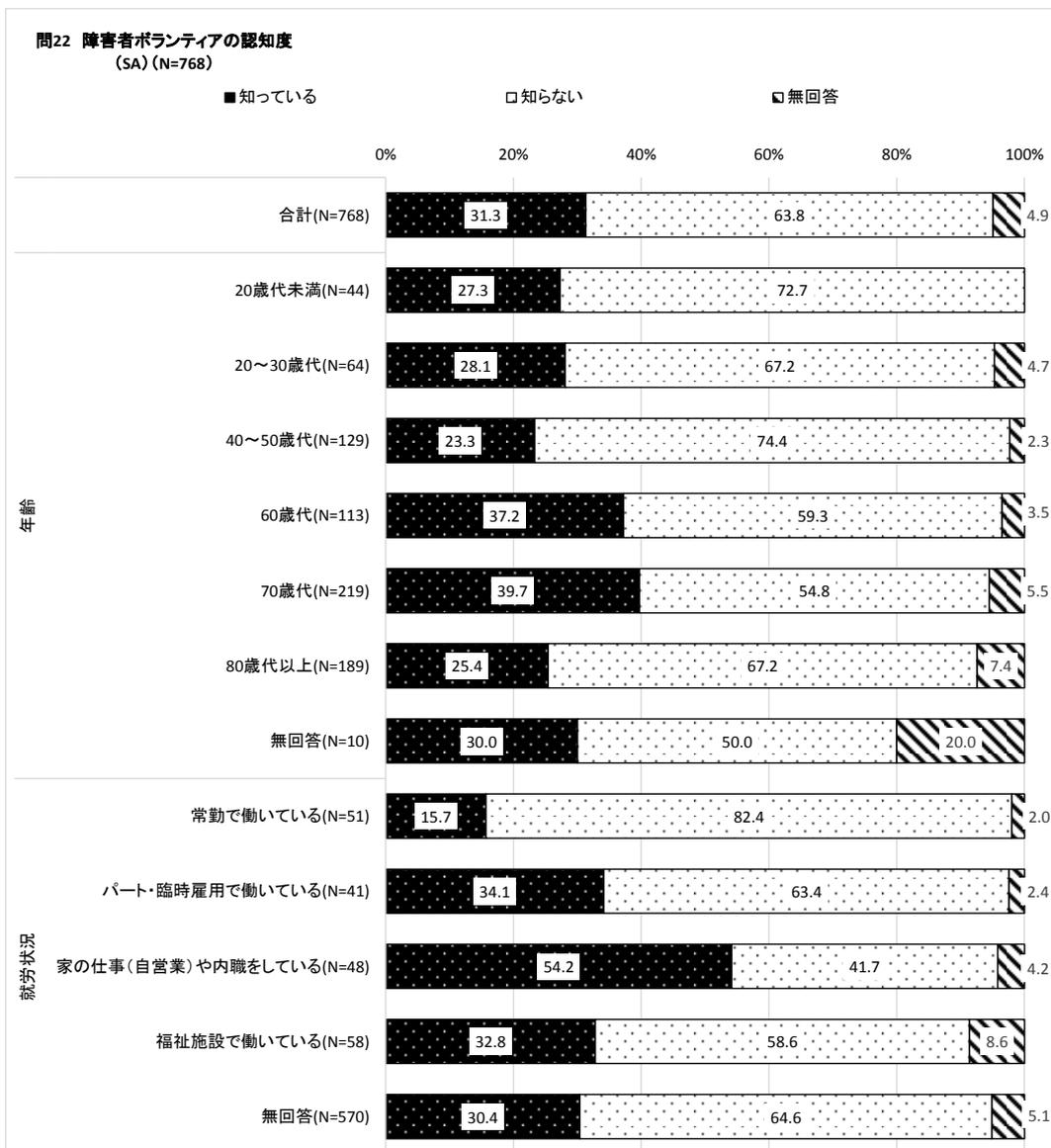


問 22 精華町では障害者の社会参加を応援するボランティア団体が活動していますが、ご存じですか。【○はひとつ】

- ボランティア団体の認知度では、31.3%が「ボランティア団体を知っている」と答えています。平成23年度調査と比較すると、認知度が若干下がっています。
- 全体（合計）との比較では、若い世代や常勤で働いている回答者の認知度が低くなっています。

表 ボランティア団体の認知度

	全体	知っている	知らない	不明
H29 調査	100.0	31.3	63.8	4.9
H23 調査	100.0	40.0	53.3	6.7
H13 調査	100.0	46.7	40.5	12.8

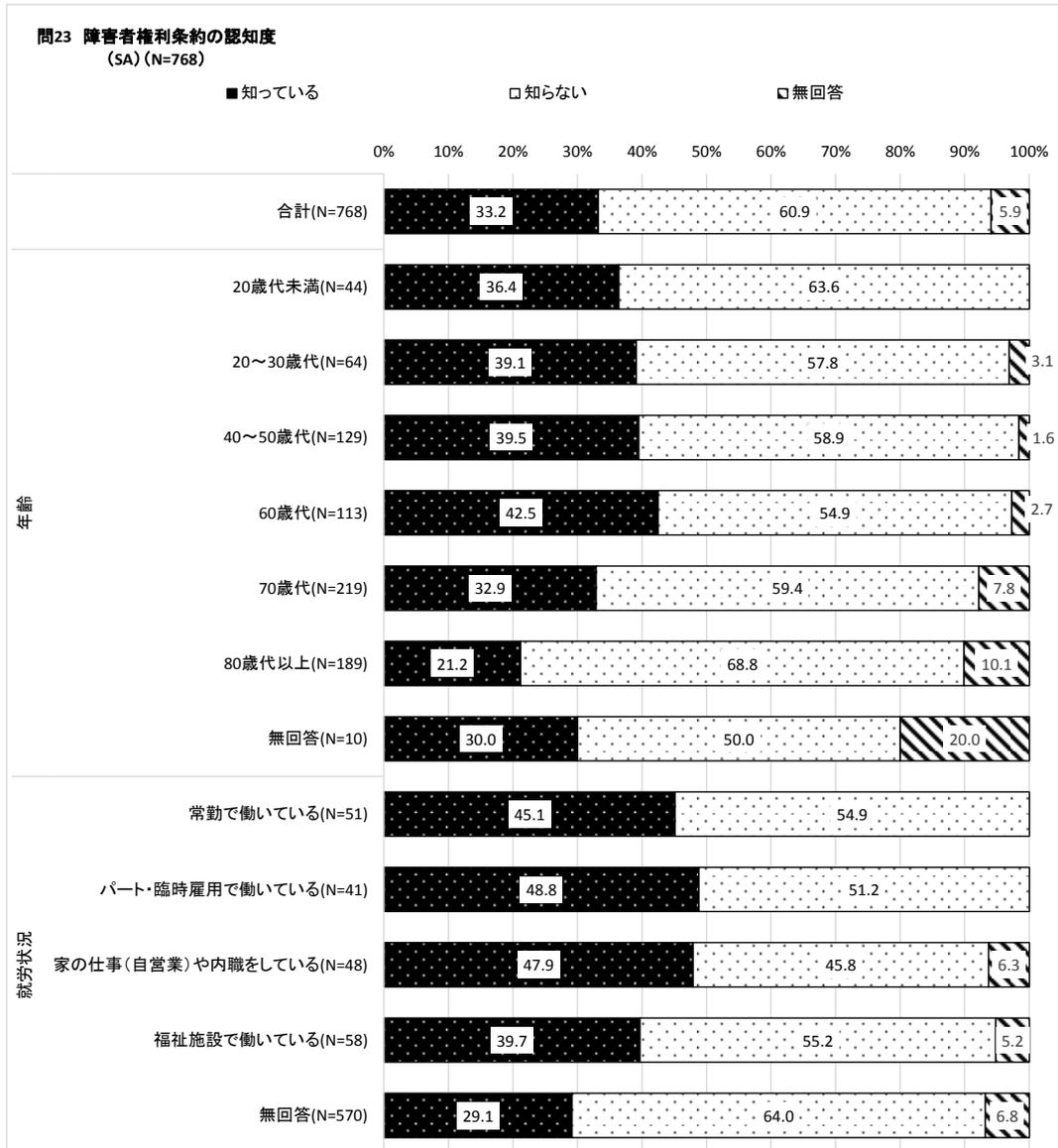


5 障害者に対する差別解消について

問23 あなたは、障害を理由とする差別を禁止する、障害者権利条約についてご存じですか。【〇はひとつ】

○障害者権利条約の認知度では、33.2%が「知っている」と答えています。

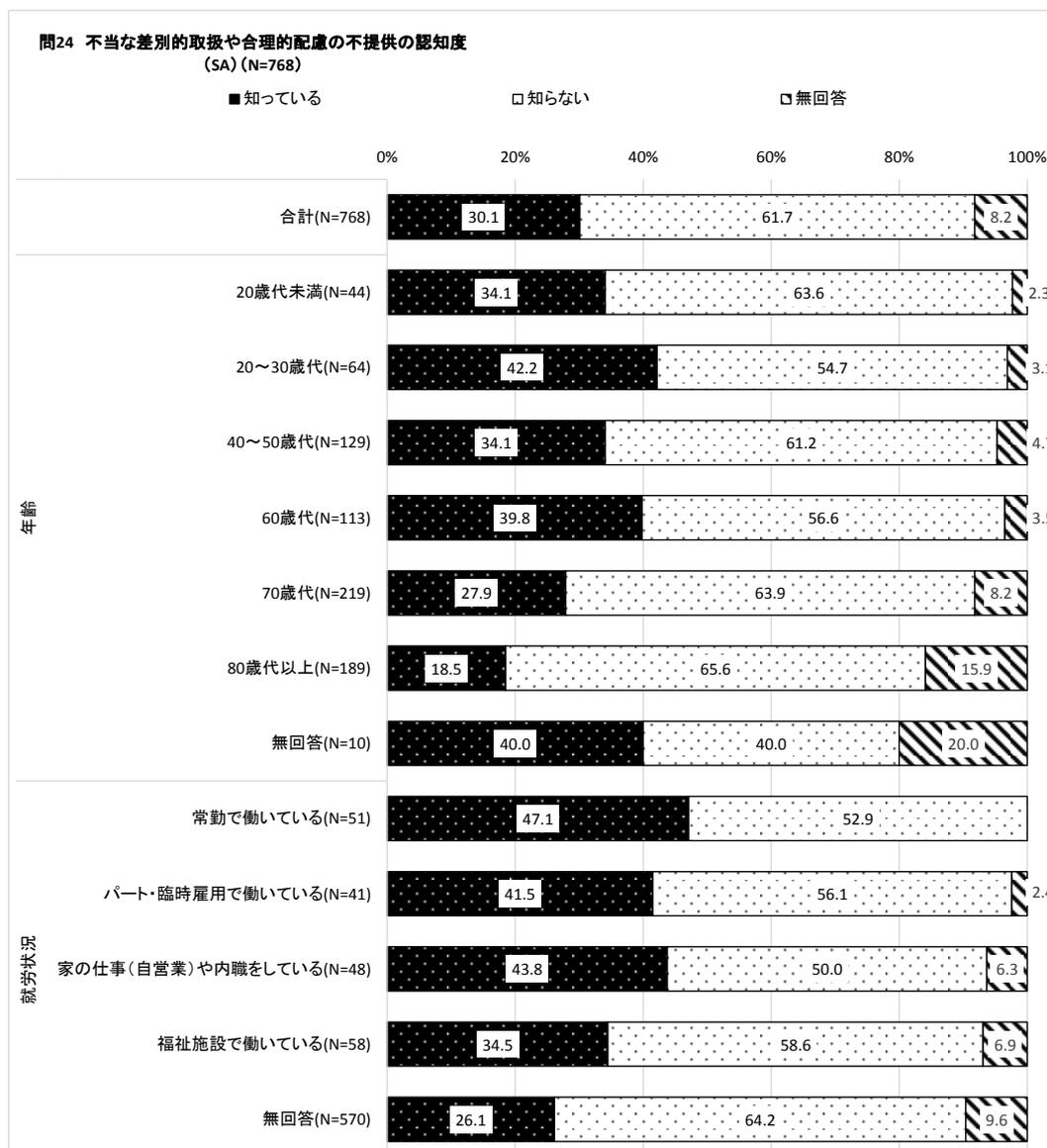
○全体（合計）との比較では、若い世代や常勤で働いている回答者の認知度が高くなっています。



問 24 あなたは、障害者権利条約や障害者差別解消法における「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮の不提供」が障害者差別に該当することを、ご存じですか。【○はひとつ】

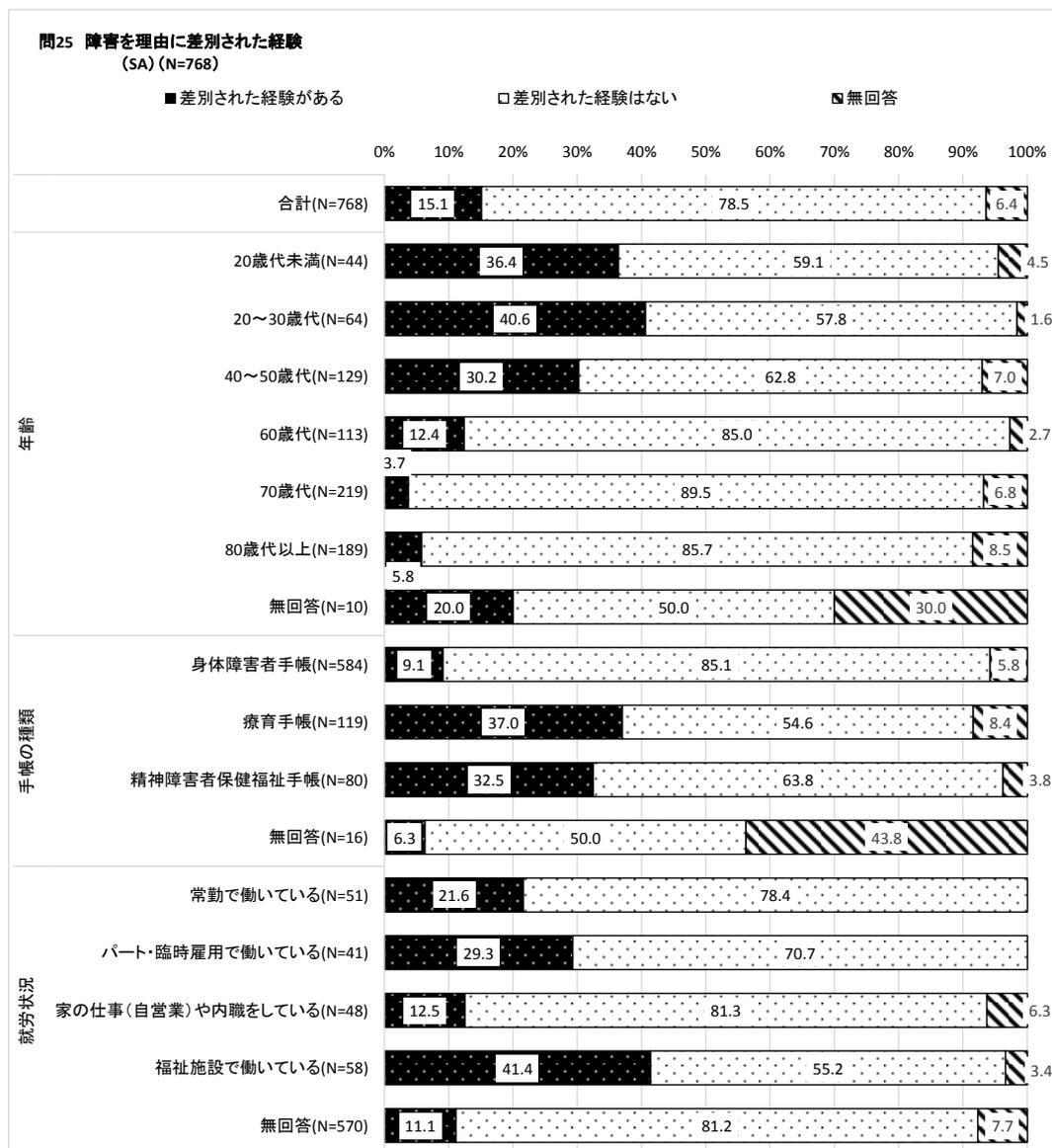
○不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供の認知度では、30.1%が「知っている」と答えています。

○全体（合計）との比較では、若い世代や常勤で働いている回答者の認知度が高くなっています。



問25 あなたは、「障害を理由に差別された経験」がありますか。【○はひとつ】

- 障害を理由に差別された経験では、15.1%が「差別された経験がある」と答えています。
- 年齢別では、全体（合計）と比較すると、20歳代未満や20～30歳代、40～50歳代、療育手帳や精神保健福祉手帳所持者について、「差別された経験がある」回答者の比率が高くなっています。
- 就労の現場では、全体（合計）と比較すると、福祉施設で働いている、パート・臨時雇用の回答者について「差別された経験がある」回答者の比率が高くなっています。



問 26 あなたの差別の経験について、具体的に書いてください。

○差別の経験について具体的な内容は、職場における経験が最も多く上げられています。

○その他に、学校等の教育現場、建物や交通機関、情報コミュニケーション、医療、買い物や食事、地域や家庭について差別の経験が上げられています。

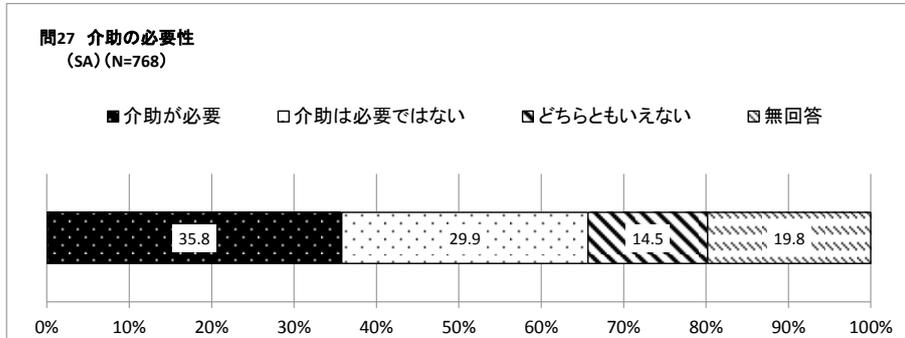
項目	件数	主な意見
職場に関するご意見	16	<ul style="list-style-type: none"> ・上司に差別発言をされたことがある。 ・就職活動で不利を受けた。 ・通常の業務をまかされていながら、正社員にできないと言われた。 ・現在パートで働いていますが、勤務時間も他の人より短く時給も安い。仕事内容も単純な仕事ばかり。もっと働きたいし、お給料もたくさんもらいたい。差別されている感じがする。 ・就職の面接で断られる。
学校等の教育に関するご意見	12	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちから差別されて、遊んでもらえなかった。支援学級の子やろ、とよく指さされた。普通学級の友だちとあまり遊べなかった。 ・保育所で、言葉の情報が受け取りにくい、視覚支援は、療育になるのではないと言われた。 ・保育所の一時保育で「この子一人を預かると他の子を預かれない」と言われた。 ・学校時体育の授業で、自分の障害を説明できず不利に扱われた。十分に教師が障害を理解してなかった。 ・学校で行事に参加させてもらえない事があった。不器用、下手などの理由でクラスや部活のみんなの足を引っばって、良い結果(成績)を残せなかったらいけないからと言われた。 ・保育所で障害特性にあわせた支援を求めたが断わられた。自閉症で視覚支援やPECSを利用してコミュニケーションを図りたかったが、本人に理解できない言葉の指示のみだった。習得できるはずの学習内容や身辺自立を学ぶ機会が失われた。先生に対して不信が強く、夜泣きが続いた、母である私も辛く悲しい日々だった。所長にも相談したが変わらなかった。
建物や交通機関に関するご意見	12	<ul style="list-style-type: none"> ・畳の部屋で展示会があった時「タイヤ拭きますから」と言っても車椅子での入場を断られました。どこの神社仏閣へ行っても大きな階段で入れないのです。1mでいいのです、階段の端をセメントで埋めてスロープにしてもらえたら嬉しいです。 ・本人の病気がうつるからこないでと言われ辛い思いをしています。排泄が少し長く(トイレの使用)かしの木苑で使用を控えてほしいと言われ本人は悲しんでいました。 ・足が不自由のため階段に手すりがない所が多い(特に寺社)。生きている間に旅行に行きたいが、バリアフリーの宿泊施設が温泉地には少ない。また、JRの駅にもエレベーターは少ない(地方)、生きている間に美味しい食べ物をと考えるが店には階段が多く、特に下りの階段がある所はつらい。 ・旅館に泊まろうとして、館内で走っていたら(他に客はいなかった)旅館の主に怒られた(障害に対する無理解、知的障害は目に見えない)結局、泊まらずに旅館から出て行った苦い思い出です。 ・交通機関、人身事故など。電車が途中長時間止まった時、電車の中にお知らせ文字放送がありません。放送があるけど耳の不自由なのでわかりません、文字など付けてほしいです、駅ホームもすべてです。交通機関だけでなく、デパートとかスーパーとかも災害、事故などお知らせ文字放送、目で見える印とか付けてほしいです。

項目	件数	主な意見
情報・コミュニケーションに関するご意見	7	<ul style="list-style-type: none"> ・耳が聞こえにくいからと言って、会議に参加させてくれなかった。 ・美容院で、耳が悪いので、補聴器を外すので少し大きい声で話しかけてくださいとお願いしたら、ずっとですか？可哀相と言われた。特に可哀相な目に合っていないし、普通に生活してきたので、と思った。障害にもよるが、可哀相とか言葉の差別はダメだと思う。
医療に関するご意見	6	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害がある。精神科以外の科を受診した際、病気の状態を説明しても何も信じてもらえない。胃が痛いと内科で訴えても気のせいだとか、あなたの言うことは信用できないと言われた。 ・精神科での医療関係者の発言（患者に対する言葉の選択及び言葉使い）。ケースワーカー、精神保健福祉士は比較的理解がある様に感じるが、ドクター・ナースの中には人によって、かなり差別的な言葉を日常的に使っていても違和感を感じていない人がある。 ・歯医者さんに障害があるなら診察はできないとことわられた。 ・子供が小さい頃バタバタしていたのですが、散髪を何件か断られました。歯医者でもいやな思いをしました。
買い物や食事に関するご意見	4	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランで食事中に、こだわりの強い言葉をくり返していたら、近くで食事をしていた客に「きしょくが悪い！出て行け！」と怒鳴られた。 ・近所にあるフレンチレストランで子供会の会食が行われる予定がありました。その時参加を希望したのですが、車イスでの来店を拒否されました。下の床が汚れてしまうためです。どうしても入りたければ「ビニールシートを持って来い」との事でした。明らかに差別です。
地域や家庭に関するご意見	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域では古くからの考え偏見が強く、一部の大人が認識を誤っているように感じる。

6 障害者を介助しているご家族について

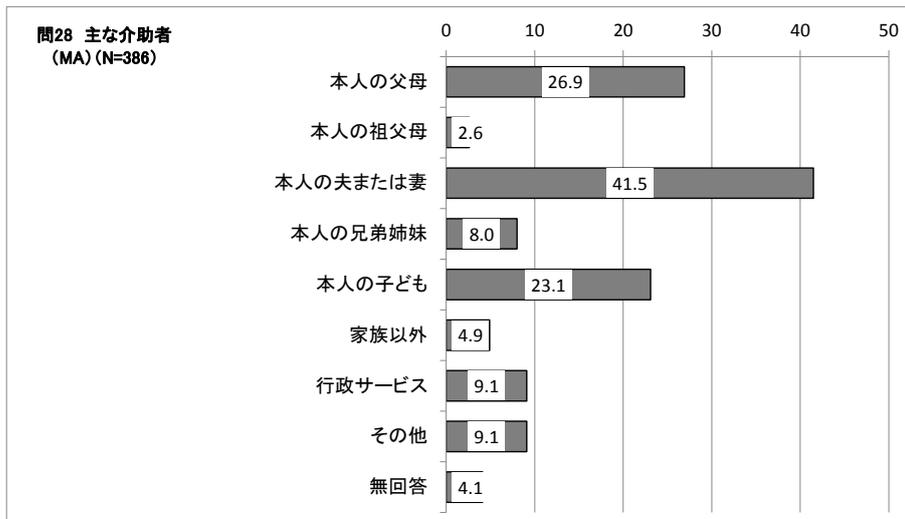
問 27 障害者の方の介助についてお答えください。【○はひとつ】

○介助者に対する質問では、35.8%が「介助が必要」と答えています。



問 28 障害者の方を主にどなたが介助されていますか。【○はいくつでも】

○主な介助者は「本人の夫または妻」が最も多く、「本人の父母」「本人の子ども」が続いています。



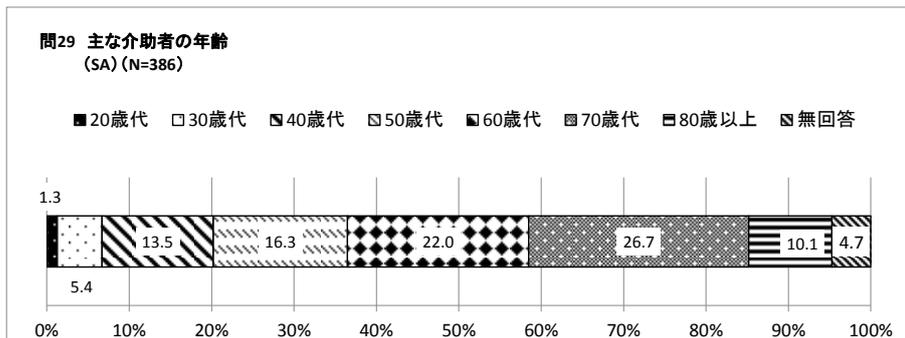
問 29 主な介助者の年齢についてお答えください。【○はひとつ】

○主な介助者の年齢は、「60歳以上 (58.8%)」が過半を占めています

○平成23年度調査との比較では、介助者の高齢化が示されています。

表 主な介助者の年齢

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不明
H29 調査	100.0	1.3	5.4	13.5	16.3	22.0	36.8	4.7
H23 調査	100.0	2.1	3.3	12.4	19.4	26.4	29.5	7.9
H13 調査	100.0	1.0	12.5	19.4	22.9	22.9	17.4	4.2



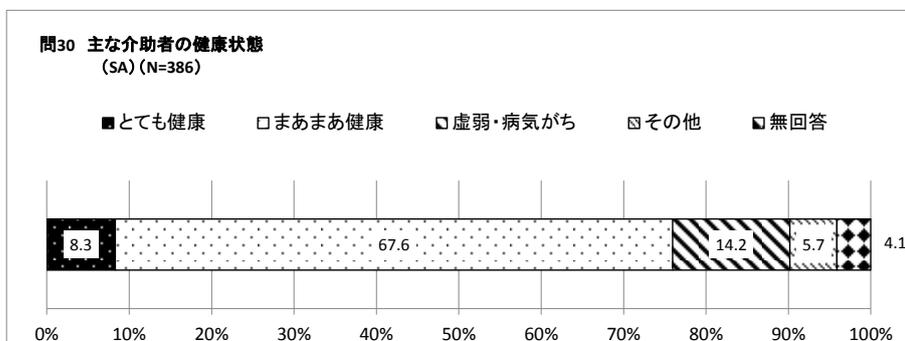
問30 主な介助者の健康状態についてお答えください。【○はひとつ】

○主な介助者の健康状態について「虚弱・病気がち」が14.2%となっています。

○平成23年度調査との比較では、大きな差は生じていません。

表 主な介助者の健康状態

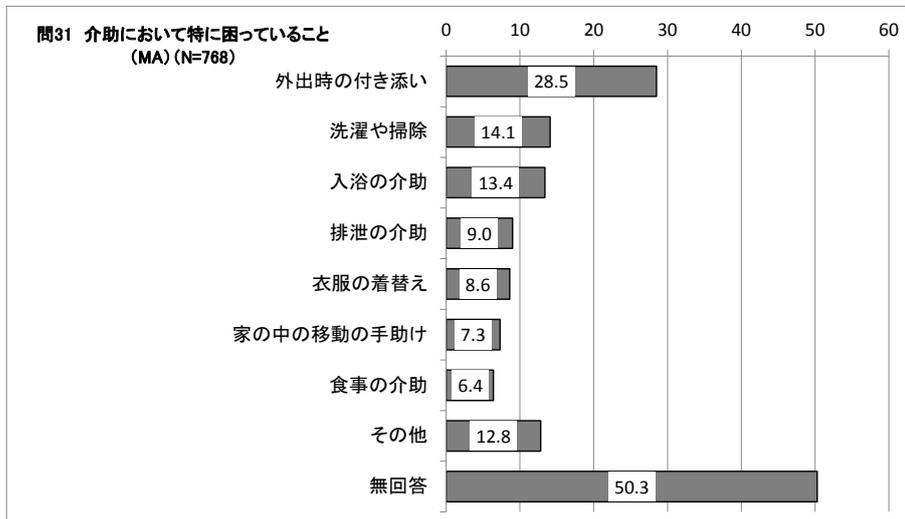
	全体	とても健康	まあまあ健康	虚弱・病気がち	その他	不明
H29 調査	100.0	8.3	67.6	14.2	5.7	4.1
H23 調査	100.0	7.0	64.0	15.3	7.4	6.2
H13 調査	100.0	8.3	67.4	16.0	5.6	2.8



問31 介助において、特に困っていることについてお答えください。【○はいくつでも】

○介助で困っていることについては、「外出時の付き添い」が突出しています。その他に、「洗濯や掃除」「入浴の介助」「排泄の介助」といった回答が続いています。

○障害者手帳別では、大きな回答差は生じていません。



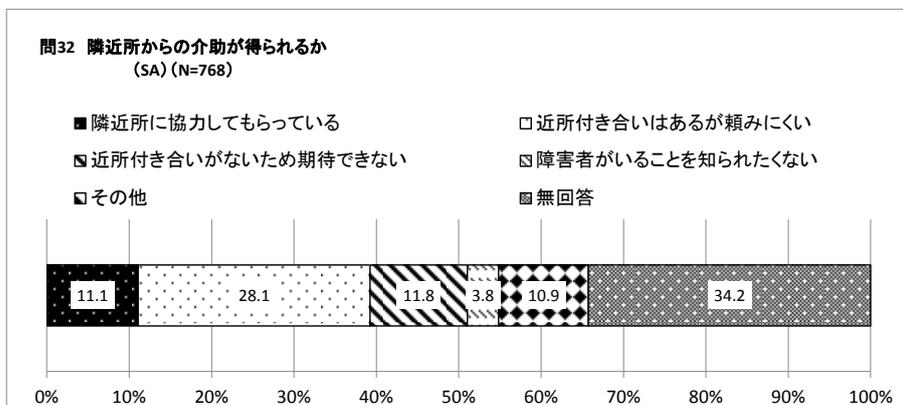
	調査数	外出時の付き添い	洗濯や掃除	入浴の介助	排泄の介助	衣服の着替え	家の中の移動の手助け	食事の介助	その他	無回答
合計	768	219	108	103	69	66	56	49	98	386
	100.0	①28.5	②14.1	③13.4	9.0	8.6	7.3	6.4	12.8	50.3
身体障害者手帳	584	161	80	82	54	58	53	35	63	306
	100.0	①27.6	③13.7	②14.0	9.2	9.9	9.1	6.0	10.8	52.4
療育手帳	119	53	20	23	18	11	8	13	28	32
	100.0	①44.5	③16.8	②19.3	15.1	9.2	6.7	10.9	23.5	26.9
精神障害者保健福祉手帳	80	18	13	8	5	7	6	8	10	45
	100.0	①22.5	②16.3	10.0	6.3	8.8	7.5	10.0	③12.5	56.3
無回答	16	2	3	2	1	1	-	2	4	9
	100.0	12.5	18.8	12.5	6.3	6.3	-	12.5	25.0	56.3

問 32 困ったときに隣近所の方から、介助の応援を得ることができますか。【○はひとつ】

- 隣近所からの支援では、「隣近所に協力してもらっている」の回答が 11.1%となっており、地域に支えられている介助者があります。
- 一方で、「近所付き合いはあるがたのみにくい (28.1%)」といった回答があり、さらに、「近所付き合いがないため期待できない (11.8%)」「障害者がいることを知られたくない (3.8%)」のように、地域とのつながりに消極的な介助者があります。
- 平成 23 年度調査との比較では、「近所付き合いはあるがたのみにくい」「近所付き合いがないため期待できない」の比率は若干下がっており、介助者と地域とのつながりが生じていることが示されています。
- 手帳の種類別では、全体（合計）との比較では、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳所持者について「近所付き合いはあるがたのみにくい」「近所付き合いがないため期待できない」の比率が高くなっています。精神障害者保健福祉手帳所持者について「障害者がいることを知られたくない」の回答が高くなっています。

表 隣近所からの支援

	全体	隣近所に協力してもらっている	近所付き合いはあるがたのみにくい	近所付き合いがないため期待できない	障害者がいることを知られたくない	その他	不明
H23 調査	100.0	11.1	28.1	11.8	3.8	10.9	34.2
H23 調査	100.0	16.5	43.4	15.3	1.7	10.7	12.4
H13 調査	100.0	16.7	23.9	5.3	1.7	6.9	45.0



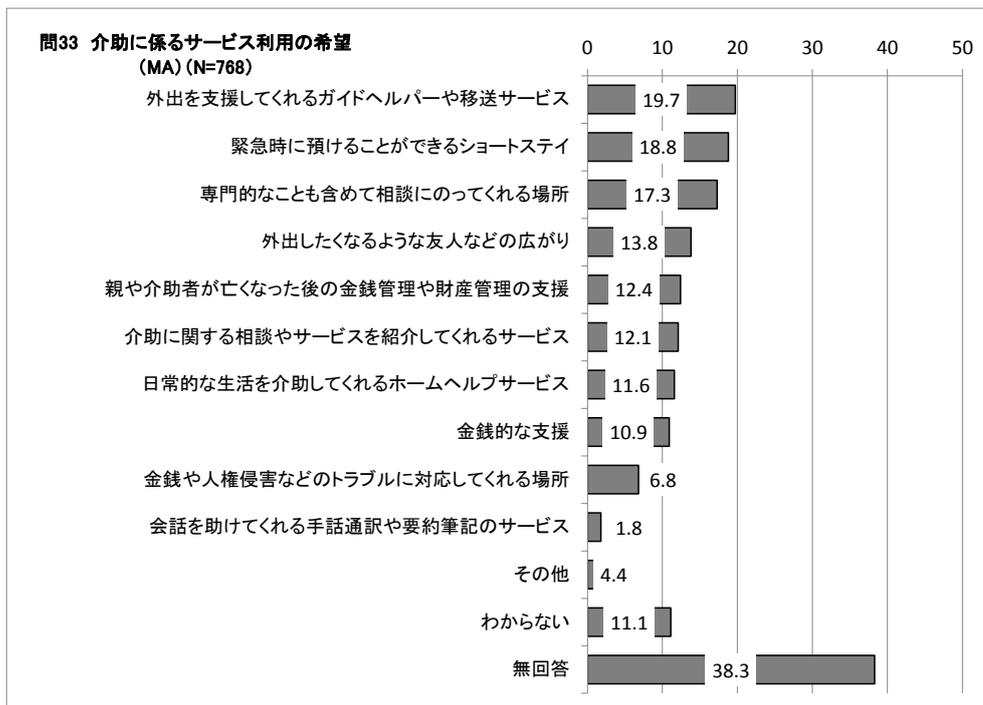
		調査数	隣近所に協力してもらっている	近所付き合いはあるが頼みにくい	近所付き合いがないため期待できない	障害者がいることを知られたくない	その他	無回答
手帳の種類	合計	768 100.0	85 11.1	216 28.1	91 11.8	29 3.8	84 10.9	263 34.2
	身体障害者手帳	584 100.0	71 12.2	159 27.2	57 9.8	13 2.2	70 12.0	214 36.6
	療育手帳	119 100.0	9 7.6	50 42.0	23 19.3	5 4.2	8 6.7	24 20.2
	精神障害者保健福祉手帳	80 100.0	8 10.0	19 23.8	13 16.3	10 12.5	2 2.5	28 35.0
	無回答	16 100.0	- -	2 12.5	3 18.8	1 6.3	4 25.0	6 37.5

問 33 介助の手助けとして、どのようなサービスの利用を希望されますか。

【〇はいくつでも】

○介助者のサービス利用の希望では、「外出支援のガイドヘルパーや移送サービス」「緊急時に利用できるショートステイ」「専門的な相談にのってくれる場所」の回答が多くなっています。

○手帳の種類別では、身体障害者手帳所持者は全体（合計）と同様の傾向になっています。療育手帳所持者では「緊急時に預けることができるショートステイ」が、精神障害者保健福祉手帳保持者では「専門的なことも含めて相談にのってくれる場所」「外出したくなるような友人などの広がり」が多くなっており、ニーズの違いを示しています。



	調査数	外出を支援してくれるガイドヘルパーや移送サービス	緊急時に預けることができるショートステイ	専門的なことも含めて相談にのってくれる場所	外出したくなるような友人などの広がり	親や介助者が亡くなった後の金銭管理や財産管理の支援	介助に関する相談やサービスを紹介してくれるサービス
合計	768	151	144	133	106	95	93
	100.0	①19.7	②18.8	③17.3	13.8	12.4	12.1
身体障害者手帳	584	107	96	81	73	33	66
	100.0	①18.3	②16.4	③13.9	12.5	5.7	11.3
療育手帳	119	44	49	43	26	51	21
	100.0	②37.0	①41.2	③36.1	21.8	42.9	17.6
精神障害者保健福祉手帳	80	9	6	17	15	14	8
	100.0	11.3	7.5	①21.3	②18.8	③17.5	10.0
無回答	16	3	1	2	-	3	1
	100.0	18.8	6.3	12.5	-	18.8	6.3

7 障害者施策について

問 34 障害者施策について、自由にお書きください。

- 障害者施策について、施設やサービス等についての意見が最も多く上げられています。
- その他に、将来の不安、役場のサービス、援助や支援、道路交通、就労についての意見がありました。

項目	件数	主な意見
施設やサービス等に関するご意見	41	<ul style="list-style-type: none"> ・親が高齢の為、親亡き後が心配。グループホームの新設を望む。 ・家族で出掛ける際、ヘルパーさんが居てくれたら、と思う事があるので、家族同伴でも移動支援を使える様にして欲しい。 ・親亡き後の金銭管理の出来る部署を事業所内に作って欲しい。事業所側は「事故防止が難しいからやりたくない。」と言われる。難しい問題とは思いますが是非に！と願う。 ・事業所の数が足りていなくて、将来子どもが行く所があるのか、また普段ショートステイも利用できていないのに、緊急時に預ける所があるのか？親が亡くなって子ども一人になってしまった時に入る、グループホームがあるのか？とても心配です。 ・介助している者も、急用ができたり、いつ体調が悪くなるかわかりません。ショートステイがあれば心強いです。 ・医療的ケアが必要な人でも入所できるような施設が欲しい。 ・支援学校の高等部卒業後に生活介護事業にお世話になりたいが、どこも定員がいっぱいなのと、空いていても自閉症への支援を期待できない。自閉症の支援がある生活介護事業所に精華町にきて欲しい。今ある事業所も自閉症についての支援を積極的に取り入れて欲しい。
将来に関するご意見	36	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者は近い将来訪れるであろう介護を受ける事への不安を合わせ持っている。一定の年齢や障害度合に応じ年1回くらいは個別のヒヤリングなどを行い、指導や各人の状況把握を行うような制度をつくられてはと思います。 ・現時点では、なんとか生活できているが加齢と共に体が不自由になり、歩けなくなったり動けなくなった時が不安である。 ・年令を重ねるごとに障害が重度化し、生活や将来に対する不安がつのっていくことは避けられないことかもしれません。特に一人暮らしの障害者には深刻な問題です。自らが発信しない限り、福祉行政のサービスが受けられないのが現状です。 ・今は夫婦で元気に助け合っていますが、これから先は分かりません。その場合に、気楽に相談に乗ってもらえるよう行政が有難いです。いつも気に留めていて下さることは障害者として安心して生活出来ます。
役場に関するご意見	34	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮を必要とする職員が配属されている部署における人員配備を適正に行い、要配慮者をカバーする体制づくりを推進して頂きたい。管理職によって、差別等に対する意識に温度差が存在する。管理職を対象とした人権研修をもっと頻繁に行ってほしい。 ・一人一人のサービスの希望が違うと思うので、必要な時に必要なサービスが受けられる様、寄り添ってもらえると安心。 ・障害者の手続きに時間がかかりすぎる。精神障害者に対して、法的援助が他の障害者に対して少ない。たとえば、医療費に関しては、他の自治体では支援されているのに、精華町では皆無。 ・障害者の保護者ですが、役場に行政サービスのお願いくると、四角四面の対応をされ、障害者自立支援に反すると強く感じました。寄り添う姿勢を示してほしい。

項目	件数	主な意見
援助や支援に関するご意見	24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者相談支援センターで支援をいただき助かっています。ただし、親の高齢化で親なき後の相談をしますと、この回答に苦慮しています。又、親と障害者、同時に支援を要する事例も出てきているようです。可能な限り自宅で親が努力しますが、難しい問題です。 ・ 自分が住んでいる所でどういうものが受けられるのかまとめられ、しめしていただけると助かります。
道路交通に関するご意見	21	<ul style="list-style-type: none"> ・ むくのきセンターやかしのき苑に行きたいと思っても交通便が悪く、行きたい催しに参加出来ず、外出の機会が無い。役場など駅から近い、誰もが便利の良い場所で開催して欲しい。華創を見て興味があっても、行けない。かしのき苑への直行バスを復活させて欲しい。 ・ 外出をもっと気軽に行えるよう、公共交通機関（とりわけ線路の東側）を充実させてほしい。 ・ 狛田駅(近鉄)にエレベーターを設置して欲しい。 ・ 各スーパーや店で障害者用駐車が設けられているが、管理があまりだと思います。何か良い対策はないでしょうか。
就労に関するご意見	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神障害者雇用義務化が4月から始まりますが、就職活動している状況において何か変化があるのでしょうか?今迄何社も受けましたが、うまくいきません。対人関係が苦手な為、製造業等単純作業につきたいと思いますが、そのような求人も少なく、自分にできる仕事を探すのもひと苦労です。 ・ 親が亡くなった後の金銭的なことが心配です。月に少額の工賃しかいただけない状況であっても、障害者年金はA判定の為合わせても生活できる額にはなりません。一般の企業等で働きたくても働けないのです。 ・ 家族に障害者がいると本人以外も不自由(制限)がたくさんあります。母親も早く働きに行きたいです。母が元気でも子をどこでも預けられないので仕事復帰がこのままではできません。 ・ 薬を常時服用しており、体調が優れないと長期にわたり仕事を休む必要があり、就労支援をお願いしたい。

調査票

精華町の共生社会（障害福祉）に関するアンケート調査 — 誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らせる福祉のまち 精華町 —

みなさまには、日頃から精華町行政へのご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。本町では、障害のある方もない方も、その人らしい自立した社会生活（共生社会）が送れるよう、障害福祉施策に取り組んできました。

このたび、各種の障害のある手帳をお持ちの方へのアンケート調査を行い、寄せられた意見をもとに今後の共生社会づくりの各種事業や計画に活かしていきたいと思っております。

この調査票は各種の障害のある手帳をお持ちの方に郵送しています。調査の結果について、お名前が出ることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところ申し訳ありませんが、ご協力のほどよろしく願いいたします。

平成30年2月

※回答では、お名前を書かないでください。また、ご本人が回答することが難しい場合は、ご本人の意見を尊重して介助者や保護者の方が代筆していただくか、福祉課までご相談ください。

※質問についてあてはまる番号に○を、その他については（ ）に内容を記入してください。サービス利用の質問では「障害福祉サービスの受給者証」で内容を確認してください。

※調査票は、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに**2月22日(木)**までにポストにご投函ください。

【調査の問い合わせ先】

精華町 健康福祉環境部 福祉課
〒619-0285 京都府相楽郡精華町
みなみいなやづまきたじり
南稲八妻北尻70

TEL 0774-95-1904
FAX 0774-95-3974

相楽地域障害者生活支援センター

〒619-0241 京都府相楽郡精華町 祝園
さかきがつぼ ほうその
榊ヶ坪26-4祝園さくら館

TEL 0774-93-3936
FAX 0774-93-3937

1 あなた自身（障害者ご本人）と世帯についてお聞きします

問1 あなたの性別についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの年齢についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 20歳未満 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代 5 50歳代
6 60歳代 7 70歳代 8 80歳以上

問3 あなたのお住まいの地区についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 菱田 2 滝ノ鼻 3 舟 4 里 5 僧坊 6 谷
7 旭 8 北稲八間 9 南稲八妻 10 植田 11 菅井 12 北ノ堂
13 馬淵 14 南 15 中 16 東 17 西北 18 山田
19 乾谷 20 柘榴 21 東畑 22 中久保田 23 桜が丘 24 光台
25 祝園西 26 精華台 27 その他 28 わからない

問4 あなたの家族構成についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 ひとり暮らし 2 夫婦ふたり暮らし
3 親、子どもからなる世帯 4 夫婦、親、子どもからなる世帯
5 その他の世帯（ ）

問5 あなたの障害についてお答えください。

問5-1 いくつかの障害（重複障害）がありますか。【○はひとつ】

- 1 重複障害である 2 重複障害ではない

問5-2 あなたの障害についてお答えください。

【重複障害の場合は該当するものすべてに○】

- 1 肢体不自由 2 視覚障害
3 音声・言語障害またはそしゃく機能障害 4 聴覚・平衡機能障害
5 体幹機能障害 6 内部障害
7 知的障害 8 精神障害
9 その他（ ）

問6 あなたの持っている手帳の種類と程度についてお答えください。手帳を2つ以上持っている方は、該当する番号に○をつけ、それぞれ障害の程度を選んでください。

1 身体障害者手帳	2 療育手帳	3 精神障害者保健福祉手帳
-----------	--------	---------------

↓	↓	↓
1 1級 2 2級 3 3級 4 4級 5 5級 6 6級	1 A判定 2 B1判定 3 B2判定	1 1級 2 2級 3 3級

問7 あなたの障害支援区分についてお答えください。【○はひとつ】

※障害支援区分とは、障害のある人に対する介護給付の必要度を表す6段階の区分です。「障害福祉サービスの受給者証」で内容をご確認ください。

1 区分1	2 区分2	3 区分3	4 区分4	5 区分5
6 区分6	7 非該当	8 申請していない	9 わからない	

問8 あなたは現在、リハビリテーションや生活訓練を受けていますか。【○はひとつ】

1 受けている	2 必要だが受けていない
3 必要はない	4 その他 ()

問9 あなたは健康診断を受けていますか。【○はひとつ】

1 医療機関で受けている	2 職場で受けている
3 学校で受けている	4 町の健康診断を受けている
5 その他 ()	6 受けていない

問10 あなたは現在、慢性的な病気（高血圧症、リュウマチ、糖尿病など）にかかっていますか。【○はひとつ】

1 かかっている (病名)	2 かかっていない
----------------	-----------

問11 あなたは、あなたの障害について相談できる医師がいますか。【○はひとつ】

1 かかりつけの医師がいる	2 かかりつけの医師はいない
---------------	----------------

問12 あなたは歯の治療を受けられる歯科医師がいますか。【○はひとつ】

1 かかりつけの歯科医師がいる	2 かかりつけの歯科医師はいない
-----------------	------------------

2 社会参加について、あなた自身（障害者ご本人）にお聞きします

問13 あなた（障害者ご本人）の就学・就労状況についてお答えください。

【○はひとつ】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 一日中、家にいる
(働いていない) | 2 常勤で働いている |
| | 3 パート・臨時雇用で働いている |
| | 4 家の仕事（自営業）や内職をしている |
| | 5 福祉施設で働いている・日中活動をしている |
| | 6 就学または保育中 |
| | 7 入院中である |
| | 8 入所施設で生活している |
| | 9 その他 () |

問14 あなた（障害者ご本人）の社会参加の状況についてお答えください。

【○はひとつ】

- | |
|-------------------------------|
| 1 障害者仲間との交流がある |
| 2 仕事や活動を通じて、障害者の仲間や健常者との交流がある |
| 3 隣近所との交流がある |
| 4 普段は家族や親類以外の交流はない |
| 5 その他 () |

問15 普段について、1週間のうちの外出の割合についてお答えください。【○はひとつ】

- | | | | |
|--------|-----------|-----------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3回ぐらい | 3 週に1回ぐらい | 4 ほとんど外出しない |
|--------|-----------|-----------|-------------|

問16 あなた（障害者ご本人）の友人や相談相手についてお答えください。【○はひとつ】

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 悩みを相談できる親しい友人がいる | 2 話し相手がいる |
| 3 あいさつする程度の人がいる | 4 友人や相談相手はいない |
| 5 その他 () | |

問17 あなたがよく利用する相談先についてお答えください。【○はいくつでも】

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1 役場 | 2 保健所 | 3 学校 |
| 4 病院 | 5 利用している事業所 | 6 社会福祉協議会 |
| 7 民生児童委員 | 8 障害者団体 | 9 身体障害者相談員 |
| 10 知的障害者相談員 | 11 こころの健康推進員 | 12 弁護士 |
| 13 障害者相談支援センター | 14 その他 () | 15 相談できるところがない |

問18 相談窓口について、利用する上での問題点をお答えください。【〇はいくつでも】

- 1 相談できる場所がない
- 2 専門的なことを相談できる職員がいない
- 3 場所が不便なところであり行きづらい
- 4 相談できる時間が限られており利用できない
- 5 どこに相談に行けばよいかわからない
- 6 その他 ()
- 7 特に問題はない

問19 あなたは地震や風水害のときに自分が避難する、避難所をご存じですか。【〇はひとつ】

- 1 避難所の場所を知っている
- 2 避難所の場所を知らない

問20 精華町等主催の行事に参加されたことがありますか。【〇はひとつ】

- 1 下のいずれかの行事に参加したことがある
- 2 下の行事には参加したことがない

せいか祭り (11月開催)

町民体育大会 (9月開催)

障害児レクリエーション・スクール

子ども祭り

防災訓練

ふれあいまつり (5月開催)

障害児者ふれあいのつどい (10月開催)

視覚聴覚障害者成人講座

せいか夏季地域学校

3 障害者団体やボランティアについて、あなた自身(障害者ご本人)にお聞きします

問21 障害者の社会参加を進めるために障害者団体が活動していますが、ご存じですか。【〇はひとつ】

- 1 知っている
- 2 知らない

問22 精華町では障害者の社会参加を応援するボランティア団体が活動していますが、ご存じですか。【〇はひとつ】

- 1 知っている
- 2 知らない

4 障害者に対する差別解消についてお聞きします

問23 あなたは、障害を理由とする差別を禁止する、障害者権利条約についてご存じですか。【〇はひとつ】

- 1 知っている
- 2 知らない

問24 あなたは、^{しょうがいしゃけんりじょうやく}障害者権利条約や^{しょうがいしゃさべつかいしょうほう}障害者差別解消法における「^{ふとう}不当な^{さべつてきとりあつか}差別的取扱い
や「^{ごうりてきはいりよ}合理的配慮の^{ふていきょう}不提供」が^{しょうがいしゃさべつ}障害者差別に^{がいどう}該当することを、^{ぞん}ご存じですか。【○はひとつ】

- 1 ^し知っている 2 ^し知らない

問25 あなたは、「^{しょうがい}障害を^{りゆう}理由に^{さべつ}差別された^{けいけん}経験」がありますか。【○はひとつ】

- 1 ^{さべつ}差別された^{けいけん}経験がある 2 ^{さべつ}差別された^{けいけん}経験はない

問26 あなたの^{さべつ}差別の^{けいけん}経験について、^{ぐたいてき}具体的に^か書いてください。【○はひとつ】

《記入例》
^{しかく}視覚に^{しょうがい}障害がある。^{いんしょくてん}飲食店に入ろうとしたら^{はい}店員さんから、^{てんいん}目の不自由な人は^め注文で^{ふじゆう}できないからと^{ひと}入店を^{ちゅうもん}断られた。^{にゆうてん}目が見えないから^{ことわ}入店を断ることは^{さべつ}差別ではないか。

5 障害者の方を介助されている、ご家族の方にお聞きします

問27 障害者の方の^{かいじょ}介助についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 ^{かいじょ}介助が必要 2 ^{かいじょ}介助は必要ではない 3 どちらともいえない

問28 障害者の方を主に^{かいじょ}どなたが介助されていますか。【○はいくつでも】

- 1 ^{ほんにん}本人の^{おぼ}父母 2 ^{ほんにん}本人の^{そおぼ}祖父母 3 ^{ほんにん}本人の^{おっと}夫または^{つま}妻
 4 ^{ほんにん}本人の^{きょうだいしまい}兄弟姉妹 5 ^{ほんにん}本人の^こ子ども 6 ^{かぞくいがい}家族以外
 7 ^{ぎょうせい}行政サービス 8 その他 ()

問29 主な^{かいじょ}介助者の^{ねんれい}年齢についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 ^{さいだい}20歳代 2 ^{さいだい}30歳代 3 ^{さいだい}40歳代 4 ^{さいだい}50歳代 5 ^{さいだい}60歳代
 6 ^{さいだい}70歳代 7 ^{さいいじょう}80歳以上

問30 主な^{かいじょ}介助者の^{けんこう}健康状態についてお答えください。【○はひとつ】

- 1 ^{けんこう}とても健康 2 ^{けんこう}まあまあ健康 3 ^{きよじゃく}虚弱・^{びょうき}病気がち
 4 その他 ()

問31 介助において、特に困っていることについてお答えください。【〇はいくつでも】

- | | | |
|---------|-----------|--------------|
| 1 入浴の介助 | 2 衣服の着替え | 3 家の中の移動の手助け |
| 4 排泄の介助 | 5 食事の介助 | 6 外出時の付き添い |
| 7 洗濯や掃除 | 8 その他 () | |

問32 困ったときに隣近所の方から、介助の応援を得ることができますか。【〇はひとつ】

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 隣近所に協力してもらっている | 2 近所付き合いはあるが頼みにくい |
| 3 近所付き合いがないため期待できない | 4 障害者がいることを知られたくない |
| 5 その他 () | |

問33 介助の手助けとして、どのようなサービスの利用を希望されますか。【〇はいくつでも】

- | |
|-----------------------------|
| 1 外出したくなるような友人などの広がり |
| 2 外出を支援してくれるガイドヘルパーや移送サービス |
| 3 会話を助けてくれる手話通訳や要約筆記のサービス |
| 4 日常的な生活を介助してくれるホームヘルプサービス |
| 5 緊急時に預けることができるショートステイ |
| 6 介助に関する相談やサービスを紹介してくれるサービス |
| 7 親や介助者が亡くなった後の金銭管理や財産管理の支援 |
| 8 金銭的な支援 |
| 9 専門的なことも含めて相談にのってくれる場所 |
| 10 金銭や人権侵害などのトラブルに対応してくれる場所 |
| 11 その他 () |
| 12 わからない |

問34 障害者施策について、自由にお書きください。

これで質問は全て終わりです。ご協力ありがとうございました。

